

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

## 1. 目次

# 目次

- [権利および著作権情報](#)
- [ドキュメントのアクセシビリティについて](#)
- [ドキュメントのフィードバック](#)
- [1 戦略要員プランニングへようこそ](#)
  - [戦略要員プランニングについて](#)
  - [戦略要員プランニングの詳細](#)
  - [関連ガイド](#)
- [第I部 戦略要員プランニングの管理](#)
  - [2 アプリケーションの設定](#)
    - [実装のチェックリスト](#)
    - [アプリケーションの作成](#)
  - [3 戦略要員プランニングの理解](#)
    - [戦略要員プランニングのナビゲート](#)
    - [アーティファクトの確認](#)
  - [4 戦略要員プランニングの構成](#)
    - [戦略要員プランニングの有効化](#)
      - [取得する要員詳細レベルの指定](#)
      - [人数プランニングの有効化](#)
    - [戦略要員プランニングの構成](#)
      - [プランニングと予測の準備](#)
      - [勘定科目とドライバの追加および管理](#)
      - [グローバル仮定の設定: 為替レート](#)
    - [戦略要員プランニングの構成後のタスク](#)
      - [ユーザー変数の設定](#)
    - [戦略要員プランニングのルール](#)
  - [5 要員の構成](#)
    - [要員の有効化](#)
      - [取得する要員詳細レベルの指定](#)
    - [要員の構成について](#)
    - [要員の構成](#)
      - [プランニングと予測の準備](#)
      - [勘定科目とドライバの追加および管理](#)
      - [グローバル仮定の設定: 為替レート](#)
      - [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
        - [福利厚生と税金ウィザードを使用する前に](#)
        - [福利厚生と税金ウィザードについて](#)
        - [コンポーネントの共通プロパティ](#)
        - [ウィザードでのコンポーネントのタイプ](#)
        - [一括支払いオプションについて](#)
        - [「最大値タイプ」について](#)
        - [「所得タイプ」について](#)
        - [「課税対象コンポーネント」について](#)
        - [レートの入力について](#)
        - [レートおよびしきい値のスコープについて](#)
        - [階層別のレートの適用](#)



- [デフォルトの同期](#)
- [ルールのエラー・メッセージのトラブルシューティング](#)
- [15 非報酬費用の管理](#)
- [16 デモグラフィクスの管理](#)
- [17 要員費用の分析](#)
- [18 データのレポート](#)
- [A データのインポート](#)
  - [戦略要員プランニング・データのインポート](#)
  - [要員データのインポート](#)
- [B アクセシビリティ](#)
  - [スクリーン・リーダー・モードの有効化](#)
  - [推奨事項](#)
  - [一般的な考慮事項および注意](#)
    - [キーボード同等操作の使用](#)
    - [オンライン・ヘルプ](#)
  - [アクセシビリティ機能](#)
  - [スクリーン・リーダー・モードの使用](#)
- [C 新機能を使用するための要員アーティファクトの更新](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. Oracle® Cloud

## Oracle® Cloud

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業

F11482-01

---

Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業

F11482-01

Copyright © 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

原著者: EPM情報開発チーム

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されません。

**U.S. GOVERNMENT END USERS:** Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(**redundancy**)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれ

の所有者の商標または登録商標です。

**Intel**、**Intel Xeon**は、**Intel Corporation**の商標または登録商標です。すべての**SPARC**の商標はライセンスをもとに使用し、**SPARC International, Inc.**の商標または登録商標です。**AMD**、**Opteron**、**AMD**ロゴ、**AMD Opteron**ロゴは、**Advanced Micro Devices, Inc.**の商標または登録商標です。**UNIX**は、**The Open Group**の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と**Oracle Corporation**との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、**Oracle Corporation**およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と**Oracle Corporation**との間の契約に定めがある場合を除いて、**Oracle Corporation**およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. ドキュメントのアクセシビリティについて

## ドキュメントのアクセシビリティについて

アクセシビリティに関するオラクル社の取組みの詳細は、**Oracle Accessibility Program**のWebサイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

### Oracleサポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、**My Oracle Support**を通して電子支援サービスを提供しています。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>を参照してください。聴覚に障害のある方は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. ドキュメントのフィードバック

## ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを提供するには、電子メールを[epmdoc\\_ww@oracle.com](mailto:epmdoc_ww@oracle.com)に送信するか、**Oracle Help Center**のトピックで目次の下にあるフィードバック・ボタンをクリックします(スクロール・ダウンしてボタンを表示する必要がある場合があります)。

次のソーシャル・メディア・サイトで、**EPM Information Development**をフォローしてください。

LinkedIn - [http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp\\_3127051](http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051)

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <https://www.youtube.com/oracleepminthecloud>

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. 戦略要員プランニングへようこそ

## 1 戦略要員プランニングへようこそ

関連トピック

- [戦略要員プランニングについて](#)
- [戦略要員プランニングの詳細](#)
- [関連ガイド](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングへようこそ](#)
3. [戦略要員プランニングについて](#)

## 戦略要員プランニングについて

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudで、戦略が適切な要員によってサポートされるようにし、企業の長期的戦略を実行計画に転換します。

- 適切な時点における適切なスキル・セットと人数。リソースの長期需要に影響するシナリオを調べて、これらの長期需要を確認します。たとえば退職や自然減員を通じて、現在の要員がどうなるかも確認します。供給に対する需要の評価は、必要なリソースをプロアクティブにプランニングできるように正または負のギャップを理解するのに役立ちます。ビジネス戦略をサポートするために必要な人数とスキルを予想できます。

戦略要員プランニングでは、構成可能なドライバが提供され、プランナは「将来のプランを達成するための適切なスキル・セットが従業員に備わっており、従業員の役割が適切であるか」といった質問に答えることができます。

将来の要員ニーズをプランニングするには、次のような戦略需要ドライバを定義します:

- 予想される収益
- 製造商品
- コール・センターへの電話数
- 処理する請求書の数
- 処理する保険金請求

各ドライバに最適な計算ロジックを選択します。これは、ドライバ値を将来の長期FTEに転換します。

戦略要員プランニングの詳細は、次の概要ビデオをご覧ください:



[概要ビデオ](#)

要員を有効にして人数費用を管理および追跡することもできます。その後、企業のクリティカルなリソース(人材と資金)を、競争優位性を最もよく引き出す戦略に合わせることもできます。各部門が、人数および関連する費用(給与、福利厚生、ボーナス、税金など)のプランニングを共同して行います。プランナは、費用とトレンドを示す最新のグラフィックを見ることができます。

要員ですべての機能が有効になっている場合、プランナは人数に関連する費用を管理および追跡できます:

- 人数、給与、ボーナス、税金および医療費の分析、計算および報告
- 採用、異動、昇進、雇用終了などのプランニング

- 国に適した税金と福利厚生 の定義

次のコンポーネントは、要員プランニングのニーズを満たすのに役立ちます:

- 報酬プランニング
- その他費用
- デモグラフィクス
- 分析

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングへようこそ](#)
3. 戦略要員プランニングの詳細

## 戦略要員プランニングの詳細

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudおよび関連サービスの詳細情報またはヘルプを表示するには:



- ホーム・ページの「アカデミ」  をクリックします。
- ヘルプを表示するには、画面右上隅のユーザー・アイコンの横の矢印をクリックし、「ヘルプ」をクリックします。
- [関連ガイド](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングへようこそ](#)
3. [関連ガイド](#)

## 関連ガイド

Oracle Strategic Workforce Planning CloudはOracle Fusion Human Capital Managementファミリに属し、データ管理を通じてそのサービスと統合されています。Human Capital Managementと戦略要員プランニングまたは要員の統合の詳細は、[Oracle HCM Cloudの統合](#)を参照してください。

戦略要員プランニングは、多くのOracle Enterprise Performance Management Cloudコンポーネントでもサポートされています。

戦略要員プランニングの使用を開始するには、次のガイドを参照してください:

- [管理者向けのスタート・ガイド](#)
- [ユーザー向けのスタート・ガイド](#)

戦略要員プランニングの能力と柔軟性を拡張するには、次のガイドを参照してください。関連ガイドで説明されている一部の機能は、戦略要員プランニングでは使用できないことがあります。たとえば、戦略要員プランニングはカスタム・キューブを提供し、人事ニーズの戦略プランニングをサポートする機能を含みます。

設計:

- [Calculation Managerでの設計](#)
- [Financial Reporting Web Studioでの設計](#)

ユーザー:

- [プランニングの操作](#)
- [財務レポートの操作](#)
- [Smart Viewの操作](#)
- [Smart Viewでの予測プランニングの操作](#)
- [アクセシビリティ・ガイド](#)

管理:

- [Planningの管理](#)
- [データ管理の管理](#)
- [アクセス制御の管理](#)
- [移行の管理](#)
- [EPM自動化の操作](#)
- [サードパーティの承認](#)

開発:

- [GroovyルールのJava APIリファレンス](#)
- [Smart View for Office開発者ガイド](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. 戦略要員プランニングの管理

## 第I部 戦略要員プランニングの管理

関連トピック

- [アプリケーションの設定](#)
- [戦略要員プランニングの理解](#)
- [戦略要員プランニングの構成](#)
- [要員の構成](#)
- [戦略要員プランニングと要員の更新](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. アプリケーションの設定

## 2 アプリケーションの設定

関連トピック

- [実装のチェックリスト](#)
- [アプリケーションの作成](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [アプリケーションの設定](#)
4. 実装のチェックリスト

## 実装のチェックリスト

次のタスクを実行して、Oracle Strategic Workforce Planning Cloudを設定します:

1. 戦略要員アプリケーションを作成します。[アプリケーションの作成](#)を参照してください。
2. アプリケーションが複数通貨の場合は、ディメンション・エディタを使用して各通貨のディメンション・メンバーを追加します。<https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/planning-budgeting-cloud/pfusa/index.html>を参照してください。
3. 戦略要員プランニングの機能を有効にします。[戦略要員プランニングの有効化](#)を参照してください。

「粒度」および「従業員デモグラフィクス」の選択は、戦略要員プランニングを有効にするときに設定し、後で要員を有効にした場合にも使用されます。また、戦略要員プランニングを有効にするときに、必要なカスタム・ディメンションを追加するか、ディメンションの名前を変更してください。これらのディメンションは、要員を有効にした場合にも使用されます。

機能を有効化している間は、アプリケーションはメンテナンス・モードとなり、管理者しかアプリケーションを使用できません。メタデータの変更が検出された場合、データベースがリフレッシュされてから機能は有効になります。検証エラーが検出された場合、それらが表示されます。機能を有効にするには、このエラーを解決する必要があります。

4. 戦略要員プランニングを構成します。[戦略要員プランニングの構成](#)を参照してください。

「需要ドライバ」と「ジョブの有効な交差」を構成する必要があります。

プランニングおよび予測の範囲(「プランニングと予測の準備」で構成)は、戦略要員プランニングと要員とで異なる場合があります。たとえば、戦略要員プランニングを長期プランニングに使用し、要員を短期プランニングに使用できます。

5. 構成の後では、構成の変更やメタデータのインポートを行うときに必ずデータベースをリフレッシュします:

「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。その後、「アクション」メニューから「データベースのリフレッシュ」を選択し、「作成」、「データベースのリフレッシュ」の順に選択します。

6. 要員に必要な追加機能を有効にします。[要員の有効化](#)を参照してください。

「粒度」および「従業員デモグラフィクス」の選択は、戦略要員プランニングを有効にするときに設定し、要員を有効にした場合にも使用されます。

戦略要員プランニングがすでに有効になっている場合は、追加ディメンションの追加やディメ

ンション名の変更はできません。

7. 要員を構成します。[要員の構成](#)を参照してください。

プランニングおよび予測の範囲(「プランニングと予測の準備」で構成)は、戦略要員プランニングと要員とで異なる場合があります。

他の構成タスクでは、戦略要員プランニングですでに構成してある場合は、要員で再度構成する必要はありません。

8. 構成の後では、構成の変更やメタデータのインポートを行うときに必ずデータベースをリフレッシュします。
9. 必要なユーザー変数を設定します。[ユーザー変数の設定](#)を参照してください。
10. データをインポートし、戦略要員プランニングの「ロードされた戦略要員データの処理」と要員の「ロードされたデータの処理」を実行します。

[データのインポート](#)を参照してください。

11. 必要なユーザーおよびグループ・アカウントを作成し、権限を付与します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud管理者のためのスタート・ガイド](#)を参照してください。
12. プランナがアプリケーションを使用できるようにします。ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「設定」をクリックします。「システム設定」で、「アプリケーションを使用可能にする対象」を「すべてのユーザー」に変更します。
13. 承認プロセスを定義するには、組織でプランを承認するための承認ユニットと移動パスを定義します。[Oracle Planning and Budgeting Cloud Planningの管理](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [アプリケーションの設定](#)
4. アプリケーションの作成

## アプリケーションの作成

アプリケーションを作成するには:

1. ログインして、「**Human Capital**」の下の「開始」を選択します。
2. アプリケーション名と説明を入力し、「次へ」をクリックします。
3. この情報を指定します(月次プランニングしかサポートされないことに注意します)。
  - 開始年と終了年—アプリケーションに含める年。プランニングと分析に必要な履歴実績を含む年を指定してください。たとえば、**2018**年に開始するアプリケーションでは開始年として**2017**を選択し、トレンド分析とレポートで最新実績が使用できるようにします。
  - 会計年度の最初の月—会計年度が開始する月
  - 週次配分—月の会計週数に基づいて月次配分パターンを設定します。

この選択によって、要約期間のデータを基本期間内にどう分布させるかが決定されます。ユーザーが、四半期などの要約期間に、データを入力する際、要約期間内の基本期間に値が分散されます。

「均等」以外の週次配分パターンを選択した場合、アプリケーションは、四半期の値をそれらが**13**週に分割されているかのように処理し、選択したパターンに従って週を分散します。たとえば、**5-4-4**を選択すると、四半期の最初の月は**5**週、最後の**2**か月は**4**週あることになります。

- 主要通貨—複数通貨アプリケーションでは、これがデフォルトのレポート通貨で、為替レートのロード対象の通貨です。
- 複数通貨—複数通貨のサポートは「通貨」ディメンションで提供されます。これにより、様々な通貨を使用したプランニングを行えるようになります。

「複数通貨」を選択した場合、「<メンバー>なし」という名前のメンバー(「エンティティなし」、「期間なし」、「バージョンなし」など)が、通貨情報を格納するすべてのディメンションに追加されます。このメンバーを編集または削除することはできません。

- レポート・キューブの名前—Oracle Strategic Workforce Planning Cloudは、HCMREPというASOレポート・キューブを提供します。レポート要件に対するキューブのディメンションを構成できます。

追加のASOキューブは、戦略要員プランニングを有効にするときに作成されます。

4. 「次」をクリックして選択内容を確認し、「作成」をクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. 戦略要員プランニングの理解

## 3 戦略要員プランニングの理解

関連トピック

- [戦略要員プランニングのナビゲート](#)
- [アーティファクトの確認](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの理解](#)
4. 戦略要員プランニングのナビゲート

## 戦略要員プランニングのナビゲート

有用なナビゲーション・ヒント:

- ホームページ以外にナビゲートした後でホームページに戻るには、左上隅の**Oracle**ロゴ(またはカスタム・ロゴ)か、ホーム・アイコンをクリックします 
- .
- ナビゲータで追加の管理者タスクを表示するには、**Oracle**ロゴ(またはカスタム・ロゴ) の横の水平バーをクリックします。
- ダッシュボードの上部にある「表示/非表示」バーをクリックするとダッシュボードが全画面に拡大され、再度クリックすると標準ビューに戻ります。
- カーソルをフォームまたはダッシュボードの右上隅に置くと、コンテキストに適したオプションのメニュー(「アクション」、「保存」、「リフレッシュ」、「設定」、「最大化」など) が表示されます。
- サブコンポーネントでは、水平タブおよび垂直タブを使用してタスクおよびカテゴリを切り替えます。

たとえば、概要ダッシュボードの確認と費用のプランニングを切り替えるには、水平タブを使用します。垂直タブは、有効化した機能によって異なります。

タスク内のカテゴリを切り替えるには、水平タブを使用します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの理解](#)
4. アーティファクトの確認

## アーティファクトの確認

アプリケーションのアーティファクトを確認するには:

1. 「アプリケーション」、「構成」の順にクリックし、ビジネス・プロセスを選択します。
2. 「アクション」メニューで「変更されたアーティファクトの確認」を選択します。
3. 「フィルタ」をクリックして、異なるアーティファクト・タイプを選択します。  
提供されているすべてのアーティファクトが表示され、アーティファクトが変更されているかどうかを確認できます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. 戦略要員プランニングの構成

## 4 戦略要員プランニングの構成

関連トピック

- [戦略要員プランニングの有効化](#)
- [戦略要員プランニングの構成](#)
- [戦略要員プランニングの構成後のタスク](#)
- [戦略要員プランニングのルール](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. 戦略要員プランニングの有効化

## 戦略要員プランニングの有効化

ユーザーが戦略要員プランニングを開始するためには、使用するOracle Strategic Workforce Planning Cloud機能を前もって有効化します。選択内容に基づいて、ディメンション、ドライバ、フォームおよび勘定科目が移入されます。ほとんどの場合、後から戻って、他の機能を有効化することができます。ただし、次の例外があります：

- 「従業員デモグラフィクス」を使用する場合は、初めて機能を有効にするときに選択する必要があります。
- アプリケーションに含めるディメンションは、「ディメンションのマップ/名前変更」を使用して最初に有効化するときすべてを有効化し、名前を変更する必要があります。

一度有効化した機能を後から無効化することはできません。

戦略要員プランニングの有効化の詳細は、次のチュートリアル・ビデオを参照してください。



[チュートリアル・ビデオ](#)

注意：

戦略要員プランニングは、要員を有効化および構成する前に有効化および構成します。「粒度」および「従業員デモグラフィクス」の選択は、戦略要員プランニングを有効にするときに設定し、要員を有効にした場合にも使用されます。戦略要員プランニングを有効にするときに、必要なカスタム・ディメンションを追加するか、ディメンションの名前を変更してください。これらのディメンションは、要員を有効にした場合にも使用されます。

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストで「戦略要員」を選択してから「機能を使用可能にする」をクリックします。

有効化する機能を選択します。特記しないかぎり、後から戻って追加の機能を有効化することができます。現在使用する必要がある機能のみを有効化してください。

表4-1 戦略要員プランニングの「機能を使用可能にする」

機能	説明
粒度	管理する要員の詳細レベルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 「ジョブ」を選択して、ジョブのみのレベルで長期要員プランニングを管理します。</li><li>• 「従業員とジョブ」を選択して、従業員とジョブの両方で長期要員プランニングを</li></ul>

管理します。

粒度のレベルは選択する必要があります。

[取得する要員詳細レベルの指定](#)を参照してください。

---

人数プランニング 管理する人数関連の詳細を選択します。

- 「従業員デモグラフィクス」を選択して、退役軍人ステータス、性別、年齢層などの従業員属性を分析します。「従業員とジョブ」の粒度にのみ適用されます。

「従業員デモグラフィクス」を使用する場合は、初めて機能を有効にするときに選択する必要があります。

- 「戦略要員プランニング」を選択して、戦略的な人員の需要と供給を長期的にプランニングして企業戦略と実行を一致させ、目的のオプションを選択します。

「戦略要員プランニング」を有効化した場合、「需要プランニング」および「供給プランニング」は自動的に有効化されます。

[人数プランニングの有効化](#)を参照してください。

---

ディメンションのマップ/名前変更

- アプリケーションで最大3個のカスタム・ディメンションを使用できます。
- カスタム・ディメンションを既存のディメンションにマップします。
- 基本ディメンションの名前を変更します。

この手順は、最初に戦略的要員プランニングを有効化するときに行う必要があります。

これらのディメンションは、要員を有効にしたときにも使用されます。

戦略的要員プランニングを有効にするときに、必要なカスタム・ディメンションを追加するか、ディメンションの名前を変更してください。

たとえば、最初のパスで、最上位レベルの「人数プランニング」チェック・ボックスを選択し、その下のオプション(「従業員デモグラフィクス」など)は選択せず、後で「従業員デモグラフィクス」を有効にした場合は、関連ディメンション「年齢層」、「性別」および「最終学歴」の名前を変更できません。

---

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. [戦略要員プランニングの有効化](#)
5. 取得する要員詳細レベルの指定

## 取得する要員詳細レベルの指定

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの「粒度」の選択は、要員を有効にした場合にも使用されます。「ディメンションのマップ/名前変更」で、「ジョブ」または「従業員とジョブ」の名前を変更できます。

必要な粒度を判断するには:

表5-2粒度レベルの概要

---

オプション	説明
ジョブ	「ジョブ」を選択すると、従業員に割り当てられた役割を格納する「ジョブ」ディメンションが追加されます。ジョブの例: エンジニア、ソフトウェア開発者、整備士。  このオプションを選択した場合は、「支払タイプ」と「スキル・セット」のデフォルトを設定する必要があります。または、この情報を使用しない場合は、 <b>null (No &lt;member name&gt;)</b> に設定します。
従業員とジョブ	このオプションでは、「ジョブ」ディメンションは、組織内の役割の分析を容易にする、また、新規採用要求を追跡し、役割別に従業員を識別するために、「従業員」ディメンションとともに使用されます。  このオプションを選択した場合は、「ジョブ」と「組合コード」にデフォルトを割り当てる必要があります。「組合コード」を追跡しない場合は、組合コードなしメンバーを使用するか、「組合コード」をビジネスに役立つ他の項目に変更することができます。  注意:  要員を有効にするときに組合コードの名前を変更する場合でも、名前変更したディメンションのデフォルトを割り当てる必要があります。

---

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. [戦略要員プランニングの有効化](#)
5. 人数プランニングの有効化

## 人数プランニングの有効化

「戦略要員」を有効化した場合、「需要プランニング」および「供給プランニング」は自動的に有効化されます。次の機能から選択します:

- 従業員デモグラフィクス - 退役軍人ステータス、性別、年齢層などの従業員属性を分析する場合に選択します。「従業員デモグラフィクス」を使用する場合は、初めて機能を有効にするときに選択する必要があります。「従業員とジョブ」の粒度でのみ使用できます。
- 需要プランニング - 企業目標に沿ったカスタム需要ドライバに基づいて、戦略的ジョブの長期需要を参照できます。需要ドライバの例として、収益、製造単位、処理済請求などがあります。

需要ドライバは業界ごとに異なるため、Oracle Strategic Workforce Planning Cloudには事前定義済みの需要ドライバは含まれていません。かわりに、「需要ドライバ」構成タスクを使用して、必要な数だけ構成します。需要ドライバは、手動で追加またはインポートできます。

「需要プランニング」の一環として、次のものを有効にすることもできます:

- 需要ドライバのスケール係数 - プランナは、時間の経過に伴う効率の変化を考慮して需要プランニングをスケールできます。つまり、同じ人数でより多くを達成できます。「需要スケール」を設定すると、プランナは同じ率を使用して必要なリソースを増やさずに需要ドライバを増加できます。たとえば、将来的にはコール・センターのオペレータが熟練するため、より多くの電話を処理できると予想します。[需要FTEのスケール](#)を参照してください。

「需要ドライバのスケール係数」が有効になっていても、フォームにスケール係数データが入力されていない場合は、需要計算で100%が仮定されます。

- 予想生産性向上係数 - プランナは、需要スケールの生産性を上回るFTEの生産性に対する影響を考慮できます。たとえば、プロセスを改善するか生産性を向上させるテクノロジーを購入し、需要FTEに対する影響を削減することを計画します。おそらく、新しい自動化システムは生産性を昨年よりも5%向上させると予想されます。「予想生産性」を前年の比率の5%に設定した場合、2倍の電話数の需要を満たすのに前年の比率の95%しか必要ありません。[需要FTEでの生産性変化の係数化](#)を参照してください。
- 供給プランニング - 減員ドライバを使用して要員の供給を評価できます。たとえば、年齢層別減員や「ジョブ別減員」などのドライバを使用して要員を評価できます。「年齢ベースの退職」を有効にした場合、供給計算では減員計算で年齢ベースの退職を考慮できます。退職は従業員に固有であるため、このオプションは「従業員とジョブ」の粒度レベルでのみ使用できます。
- スキル評価 - スキル能力を分析およびプランニングできます。追加できるスキルの例: プロジェクト管理またはJavaコーディング。スキルは従業員に固有であるため、このオプションは「従業員とジョブ」の粒度レベルでのみ使用できます。
- 平均報酬 - ジョブの供給と需要の報酬計算を平均報酬レートに基づいて行えます。レートは

ロードまたは指定できます。平均報酬に給与、追加の所得、福利厚生および税金が含まれるかどうかを定義できます。

供給と需要の報酬計算を正しく行うには、ジョブの平均報酬レートを通貨なしメンバーにインポートします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. 戦略要員プランニングの構成

## 戦略要員プランニングの構成

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの構成は、その機能を有効化してから行います。構成オプションは有効化した機能によって異なります。オプションによって、機能を有効化したときに作成されたディメンションにメンバー(メタデータ)がインポートされます。

構成タスクを実行した後で、「アクション」、「データベースのリフレッシュ」を順にクリックして、アプリケーションを更新します。

戦略要員プランニングの構成の詳細は、次のチュートリアル・ビデオを参照してください。



### [チュートリアル・ビデオ](#)

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします
2. 「構成」リストで「戦略要員」を選択します。
3. 必須のタスクをすべて実行します。ビジネスで必要なオプションのタスクを実行します。
4. 構成タスクの実行後に、アプリケーションをリフレッシュします。

表4-3 戦略要員プランニングの構成タスク

構成	説明
エンティティ	必須  部署、コスト・センター、事業部門など、ビジネス階層を反映する「エンティティ」ディメンション・メンバーをインポートします。  エンティティは、戦略要員プランニングと要員の間で共有されます。
プランニングと予測の準備	オプション  プランニングおよび予測の時間枠、開始期間および粒度のレベルを設定します。年ごとに異なる基準でプランニングおよび予測できます。  プランニングおよび予測の範囲は、戦略要員プランニングと要員とで異なる場合があります。たとえば、戦略要員プランニングを長期プランニングに使用し、要員を短期プランニングに使用できます。  <a href="#">プランニングと予測の準備</a> を参照してください。

## 従業員

### オプション

組織の従業員名および従業員番号をメンバーとして「従業員」ディメンションにインポートします。

---

### ジョブ・タイプ

#### 必須

ジョブ・タイプをインポートします。たとえば、戦略的ジョブや非戦略的ジョブなどのメンバーを追加します。

戦略として識別したジョブのみが、戦略の決定に影響する計算に含まれます。異なる部門には異なる要員要件があるため、ジョブを戦略的として分類する場合は、特定のエンティティまたは部門を含めることができます。

次に、「ジョブ」構成オプションを使用してジョブ・タイプを各ジョブに関連付けます。

---

## ジョブ

### オプション

組織のジョブをメンバーとして「ジョブ」ディメンションにインポートします。

---

## 従業員デモグラフィクス

### オプション

従業員デモグラフィクス(最終学歴など)を設定します。デモグラフィクスを使用すると、個々の従業員特性に基づいてデータを分析できます。エスニック・グループなどのデモグラフィクスを選択、追加、インポートまたはエクスポートできます。

「従業員デモグラフィクス」を有効化すると、戦略要員プランニングによって「性別」、「年齢層」および「最終学歴」属性が提供されます。退役軍人ステータスなどの従業員デモグラフィクスを追加できます。通常は既存の従業員のデモグラフィクス属性をインポートし、新しい従業員が採用されるとプランナがデモグラフィクスを割り当てます。

戦略要員プランニングでは、デモグラフィクスなどの情報のレポート用にデータ・マップが提供されます。

[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

---

## 従業員プロパティ

### オプション

従業員プロパティ(従業員タイプなど)を設定します。プロパティ(スキル・セット、FT/PT、開始月、功績月、採用ステータスなど)を追加、インポートまたはエクスポートします。その後、従業員プロパティを表示および編集するには、「報酬プランニング」→「従業員の詳細の管理」タブを使用します。

[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

---

性別

オプション

メンバーを「性別」ディメンションにインポートします

---

最終学歴

オプション

メンバーのインポートによって、組織で使用される最終学歴を「最終学歴」ディメンションにインポートします。

---

年齢層

オプション

メンバーを「年齢層」ディメンションにインポートします。従業員の年齢は、経時的な変化に伴って計算され、年齢層に割り当てられます。

独自の年齢層をロードするのではなく、デフォルトの年齢層を使用することをお勧めします。

---

戦略スキル  
とカテゴリ  
の管理

オプション

要員に、組織の目標をサポートするための適切なスキルがあることを確認するには、戦略スキルとカテゴリを作成および管理します。戦略要員プランニングでは、「行動的スキル」、「技術的スキル」、「管理的スキル」の3つの事前定義済カテゴリがあります。各スキル・カテゴリの下に、個々のスキル(技術カテゴリの下のJavaコーディングなど)を追加します。スキルのカテゴリは追加または名前変更できます(例: 言語)。

企業の目標を満たすために必要な要員スキルを分析すると、それらの目標を満たす準備ができます。スキル・ギャップはプランに対し、人員の再トレーニング、人員の採用、人員の異動、人員の保持が必要かどうかを示します。

---

需要ドライバ

必須

需要ドライバを定義します。需要ドライバを追加またはインポートします。これにより、企業目標に戦略的ジョブの長期需要を合わせることができます。需要ドライバの例として、収益、製造単位、処理済請求などがあります。

---

グローバル  
仮定

必須

複数通貨アプリケーションの外国為替レートを設定します。

複数通貨アプリケーションのデータのロード方法の詳細は、[戦略要員プランニング・データのインポート](#)を参照してください。

---

ジョブの有  
効な交差

オプション

検証ルールを定義して、フォームとランタイム・プロンプトに、特定のエンティティおよびシナリオに関連するジョブのみを表示できます。たとえば、研究開発部門のフォームにエンジニア・ジョブのみ表示されるようにルールを定義できます。メンバー、代替変数および属性(「ジョブ・タイプ」など)をルールのメンバーとして選択できます。

供給計算が正しいことを確認するには、「ジョブなし」メンバーとジョブのOWP\_Total Jobsメンバーを選択する必要があります。

[Oracle Planning and Budgeting Cloud Planningの管理の有効な交差の定義](#)を参照してください。

---

<カスタム・ディメンション  
オプション  
名、  
「Projects」  
など>

メンバーをディメンションにインポートすることによって、追加したディメンション(プロジェクトなど)をアプリケーションに移入します。

---

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. [戦略要員プランニングの構成](#)
5. プランニングと予測の準備

## プランニングと予測の準備

各ビジネス・プロセスについてプランの時間枠および粒度を構成できます。構成設定は個別に格納されるため、ビジネス・プロセスや年ごとに異なる時間枠と粒度を設定できます。

プランの時間枠および粒度を構成するには:

1. 「現在の会計年度」で現在の会計年度を選択します。
2. 「期間」から、現在の実績月を選択します。この値は毎月更新する必要があります。
3. 「プラン開始年」には、プランナが現在の会計年度と次の計年度のどちらでプランニングを行うかを指定します
4. 「プラン」、「年」列を順にクリックして、構成する年を選択します。たとえば、10年のアプリケーションの最初の5年間を構成するには、5年間を選択します。
5. 構成する各年のプランニングの基準を選択します。毎年同じ間隔でプランを準備する場合は、「すべて」をクリックしてから間隔(たとえば「月次」)を選択します。年によって異なる間隔でプランを準備する場合は、各年の行で間隔を選択します。たとえば、FY18では月ごと、FY19では四半期ごとにプランニングする場合、FY18の行では「月次」、FY19の行では「四半期ごと」を選択します。
6. 「予測」をクリックし、これまでの手順を繰り返して予測の基準を指定します。

この構成タスクによって、必須代替変数がすべて設定されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. [戦略要員プランニングの構成](#)
5. 勘定科目とドライバの追加および管理

## 勘定科目とドライバの追加および管理

勘定科目とドライバを追加または変更するには:

1. アカウントまたはドライバを設定する構成タスクを選択します。
2. リストからコンポーネントまたはカテゴリを選択します(ある場合)。
3. 次のタスクを実行します。
  - アーティファクトを追加するには、「アクション」メニューから「追加」を選択して、新しい行に詳細を入力します。
  - 一連のアーティファクトの変更または多数のアーティファクトの新規追加を行うには、事前定義済アーティファクトのセットをエクスポートして(「アクション」メニューの「エクスポート」を選択)、エクスポート・ファイルをExcelで変更します。事前定義済アーティファクトの編集や、アーティファクトのコピー作成と変更を行って、新しいアーティファクトを作成したり、新しいアーティファクトを追加したりします。その後、変更したファイルをインポートします(「アクション」メニューから「インポート」を選択します)。可能な場合には、カテゴリやサブカテゴリを使用して、関連する機能のアーティファクトをまとめます。
  - カテゴリまたはグループに関係なく、すべてのドライバをエクスポートまたはインポートするには、「バッチ・エクスポート」または「バッチ・インポート」を使用します。
  - 特定の種類のドライバのみをエクスポートまたはインポートするには、「カテゴリ」または「コンポーネント」を指定してから「インポート」または「エクスポート」を使用します。

注意:

- カスタム・メンバーについて一意のメンバー名と別名を指定して、提供されているメンバーと競合しないようにします。
- ドライバを削除する必要がある場合は、グループ内の他の勘定科目ドライバの式を調べて、削除しようとするドライバを参照するものがあるかどうか確認します。参照している場合は、削除に対応するようにロジックを更新します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. [戦略要員プランニングの構成](#)
5. グローバル仮定の設定: 為替レート

## グローバル仮定の設定: 為替レート

複数通貨アプリケーションを作成した後で為替レートを設定します。為替レートは次に説明するように手動で入力することもインポートすることもできます。為替レートのインポートの詳細は、*Oracle Planning and Budgeting Cloud Planning*の管理を参照してください。

為替レートを手動で設定するには:

1. 通貨ディメンションに各通貨のためのメンバーを追加します。
2. 「グローバル仮定」をクリックして、<基本通貨>に対する為替レートタスクを開きます。ここで、プランナが使用する通貨の為替レートを入力します。
3. 「視点」からメンバーを選択します。
4. 各期間および各通貨について平均為替レートと終了為替レートを入力して、フォームを保存します。

フォームの名前が<基本通貨>に対する為替レートに変更されます。<基本通貨>は、アプリケーションを作成したときに選択したレポート通貨です。たとえば、アプリケーションの基本通貨が「円」の場合、フォームは円に対する為替レートになります。これは、データの変換に使用される為替レートが対応する通貨をプランナに示し、プランナがシナリオ、年およびバージョンに固有のレートを入力できるようにします。

注意:

新しいバージョンを追加した場合は、そのバージョンに為替レートを入力する必要があります。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. 戦略要員プランニングの構成後のタスク

## 戦略要員プランニングの構成後のタスク

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの機能を有効化および構成した後でこれらのタスクを実行します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. [戦略要員プランニングの構成後のタスク](#)
5. ユーザー変数の設定

## ユーザー変数の設定

このタスクは、機能が有効化され、構成された後に実行します。

各プランナは、次に説明する変数を設定する必要があります。

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、さらに「ユーザー変数」をクリックします。
2. 次のユーザー変数を設定します:
  - 通貨
  - エンティティ
  - ジョブ・タイプ
  - レポート通貨
  - シナリオ - 要員のシナリオを設定します
  - シナリオ・ビュー - Oracle Strategic Workforce Planning Cloudのシナリオを設定します
  - 「戦略開始年」と「戦略終了年」 - 戦略要員プランニングの場合、開始年と終了年を設定することで、スキル・セット・プランニングを年の範囲に制限します
  - バージョン
  - 年

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [戦略要員プランニングの構成](#)
4. 戦略要員プランニングのルール

## 戦略要員プランニングの「ルール」

ルールを実行して、アプリケーションの値を計算します。ホームページで「ルール」をクリックします。

- 需要の計算 - 需要ドライバ情報を入力した後でこのルールを実行して、需要FTEに対する影響を確認します。
- 供給の計算 - 供給ドライバ情報を入力した後でこのルールを実行して、供給FTEに対する影響を確認します。
- ロードされたデータの処理 - このルールは要員の新規データをインポートした後に実行します。
- ロードされた戦略要員データの処理 - このルールは、Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの新規データをインポートした後に実行します。このルールは、プランニング年範囲の必要な期間にデータをコピーします。
- WFPキューブのロールアップ - このルールを実行して集計データを確認します。

注意:

「エンティティ合計」の下で親エンティティを選択することで、一度に複数のエンティティに対してルール「ロードされた戦略要員データの処理」および「ロードされたデータの処理」を実行できます。パフォーマンス上の理由から、1回のパスですべてのエンティティのルールを実行するかわりに、「エンティティ合計」で別の子を選択してルールの複数インスタンスを実行することをお勧めします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. 要員の構成

## 5 要員の構成

関連トピック

- [要員の有効化](#)
- [要員の構成について](#)
- [要員の構成](#)
- [構成後のタスク](#)
- [要員のルール](#)
- [要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. 要員の有効化

## 要員の有効化

要員を有効化および構成する前に**Oracle Strategic Workforce Planning Cloud**を有効化および構成してから、必要な追加の要員機能を有効にします。

ほとんどの場合、後から戻って、他の機能を有効化することができます。ただし、次の例外があります:

- 「従業員デモグラフィクス」を使用する場合は、初めて機能を有効にするときに選択する必要があります。
- 「粒度」および「従業員デモグラフィクス」の選択は、戦略要員プランニングを有効にするときに設定し、要員を有効にした場合にも使用されます。
- 戦略要員プランニングを有効にするときに、必要なカスタム・ディメンションを追加するか、ディメンションの名前を変更してください。これらのディメンションは、要員にも使用されます。戦略要員プランニングがすでに有効になっている場合は、要員を有効にするときにカスタム・ディメンションの追加やディメンション名の変更はできません。

ヒント:

会社が組合コードを使用しない場合は、「組合コード」ディメンションの名前を、ビジネスにとって意味のある名前に変更できます。これは、初めて機能を有効にするときに行う必要があります。

選択内容に基づいて、ディメンション、ドライバ、フォームおよび勘定科目が移入されます。

一度有効化した機能を後から無効化することはできません。

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストで「要員」を選択してから「機能を使用可能にする」をクリックします。

有効化する機能を選択します。

表5-1 要員の「機能を使用可能にする」

機能	説明
粒度	管理する要員の詳細レベルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 「ジョブ」を選択して、ジョブのみのレベルでジョブ要員費用を管理します。</li><li>• 「従業員とジョブ」を選択して、従業員とジョブの両方で要員費用を管理します。</li></ul>

戦略要員プランニングがすでに有効になっている場合、要員の粒度は戦略要員プランニングで有効にした内容に基づいてすでに設定されています。

[取得する要員詳細レベルの指定](#)を参照してください。

---

#### 費用プランニング

管理する要員関連の費用を選択します：

「費用プランニング」を選択すると、デフォルトで「報酬プランニング」(給与プランニングを含む)も選択されます。

また、選択した粒度レベルごとに、「追加所得」、「福利厚生」、「税金」および「非報酬費用」を有効化することもできます。

「従業員とジョブ」の粒度を有効にした場合のみ、「功績ベースのプランニング」を選択できます。

---

#### 人数プランニング

「人数プランニング」および「従業員デモグラフィクス」を選択して、退役軍人ステータス、性別、年齢層などの従業員属性を分析します。「従業員デモグラフィクス」を使用する場合は、初めて機能を有効にするときに選択する必要があります。「従業員とジョブ」の粒度でのみ使用できます。

戦略要員プランニングがすでに有効になっている場合、要員の「従業員デモグラフィクス」に対する選択は戦略要員プランニングで有効にした内容に基づいてすでに設定されています。

---

#### 要員管理

従業員またはジョブの採用、雇用終了および別の部署への異動に基づいて費用をプランニングする場合に選択します。「要員管理」のオプション：

- 新規採用 - 新規採用および費用への影響をプランニングできます。
- 雇用終了 - 従業員の退職および費用への影響をプランニングできます。
- 異動 - 部署(エンティティ)間での従業員の異動を行うことができます。従業員の異動を行うと、報酬費用が計算される対象の部署が変更されます。

---

#### ディメンションのマップ名前変更

- アプリケーションで最大3個のカスタム・ディメンションを使用できます。
- カスタム・ディメンションを既存のディメンションにマップします。
- 基本ディメンションの名前を変更します。

この手順は、最初に要員を有効化するときに行う必要があります。戦略要員プランニングがすでに有効になっている場合は、カスタム・ディメンションの追加やディメンション名の変更はできません。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の有効化](#)
5. 取得する要員詳細レベルの指定

## 取得する要員詳細レベルの指定

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの「粒度」の選択は、要員を有効にした場合にも使用されます。「ディメンションのマップ/名前変更」で、「ジョブ」または「従業員とジョブ」の名前を変更できます。

必要な粒度を判断するには:

表5-2粒度レベルの概要

---

オプション	説明
ジョブ	「ジョブ」を選択すると、従業員に割り当てられた役割を格納する「ジョブ」ディメンションが追加されます。ジョブの例: エンジニア、ソフトウェア開発者、整備士。  このオプションを選択した場合は、「支払タイプ」と「スキル・セット」のデフォルトを設定する必要があります。または、この情報を使用しない場合は、 <b>null (No &lt;member name&gt;)</b> に設定します。
従業員とジョブ	このオプションでは、「ジョブ」ディメンションは、組織内の役割の分析を容易にする、また、新規採用要求を追跡し、役割別に従業員を識別するために、「従業員」ディメンションとともに使用されます。  このオプションを選択した場合は、「ジョブ」と「組合コード」にデフォルトを割り当てる必要があります。「組合コード」を追跡しない場合は、組合コードなしメンバーを使用するか、「組合コード」をビジネスに役立つ他の項目に変更することができます。  注意:  要員を有効にするときに組合コードの名前を変更する場合でも、名前変更したディメンションのデフォルトを割り当てる必要があります。

---

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. 要員の構成について

## 要員の構成について

ほとんどの構成タスクでは、**Oracle Strategic Workforce Planning Cloud**ですでに構成してある場合は、要員で再度構成する必要はありません。

プランニングおよび予測の範囲(「プランニングと予測の準備」で構成)は、戦略要員プランニングと要員とで異なる場合があります。たとえば、戦略要員プランニングを長期プランニングに使用し、要員を短期プランニングに使用できます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. 要員の構成

## 要員の構成

要員の機能を有効化した後でこのタスクを実行します。

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストで「要員」を選択します。
3. 必須のタスクをすべて実行します。ビジネスで必要なオプションのタスクを実行します。「フィルタ」を使用して、構成アクションのステータスを確認します。「アクション」を使用して、タスクのステータスを更新します。
4. 構成した後、および構成の変更やメタデータのインポートを行ったときは常に、データベースをリフレッシュします。「構成」ページで、「アクション」メニューから「データベースのリフレッシュ」を選択します。「作成」をクリックしてから「データベースのリフレッシュ」をクリックします。

表5-3 要員の構成

構成	説明
コンポーネント	<p>オプション</p> <p>選択した「等級」、「税金」、「福利厚生」および「追加所得」をインポートします。これらが要員のコンポーネントとみなされます。コンポーネントをインポートしたら、適切な「構成」オプションを使用して構成します。</p> <p>ヒント:</p> <p>バッチ・ファイルでメタデータとデータをコンポーネントにインポートできます。データをインポートするためにテンプレートを使用することもできます。<a href="#">データのインポート</a>を参照してください。</p>
エンティティ	<p>必須</p> <p>部署、コスト・センター、事業部門など、ビジネス階層を反映する「エンティティ」ディメンション・メンバーをインポートします。</p>
給与等級	<p>必須</p> <p>インポートした「給与等級」の給与基準(「年次」や「1時間ごと」など)と支給レートを定義します。</p>

---

オプション  
および層

オプション

「追加所得」のオプション(残業またはボーナスなど)および「福利厚生」のオプション(医療給付率など)を設定します。「税金」の層(雇用主負担税など)を設定します。オプションと層を設定したら、福利厚生と税金ウィザードを使用して「追加所得」、「福利厚生」および「税金」を構成します。

[勘定科目とドライバの追加および管理](#)および「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成を参照してください。

---

プランニング  
と予測の  
準備

オプション

プランニングおよび予測の時間枠、開始期間および粒度のレベルを設定します。年ごとに異なる基準でプランニングおよび予測できます。

[プランニングと予測の準備](#)を参照してください。

---

福利厚生と  
税金

必須

「福利厚生」、「税金」および「追加所得」を設定します。コンポーネントは、税金、福利厚生または追加所得です。ウィザードでは、ビジネスに基づく質問に答えることでコンポーネントを設定できます。[「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)を参照してください。

---

要員仮定

必須

日、週および年当たりの作業時間数のデフォルトの仮定を設定します。また、部分的な支払係数も設定し、産休ステータスに適用する支払パーセンテージを設定します。これらの仮定は、シナリオ、バージョン、エンティティおよび通貨別に設定できます。詳細は、[仮定の設定](#)を参照してください。

---

従業員タイプ

オプション

組織の従業員タイプをメンバーとして「従業員タイプ」ディメンションにインポートします。提供されている従業員タイプ・メンバーは、「常勤」、「契約社員」および「臨時」です。このオプションは、従業員のみレベルの粒度で使用可能です。

---

支払タイプ

オプション

組織の支払タイプをメンバーとして「支払タイプ」ディメンションにインポートします。提供されている支払タイプは、「控除」と「非控除」です。このオプションは、従業員のみレベルの粒度で使用可能です。

---

従業員デモ

## グラフィクス オプション

従業員デモグラフィクス(最終学歴など)を設定します。デモグラフィクスを使用すると、個々の従業員特性に基づいてデータを分析できます。エスニック・グループなどのデモグラフィクスを選択、追加、インポートまたはエクスポートできます。

「従業員デモグラフィクス」を有効化すると、要員によって「性別」、「年齢層」および「最終学歴」属性が提供されます。退役軍人ステータスなどの従業員デモグラフィクスを追加できます。通常は既存の従業員のデモグラフィクス属性をインポートし、新しい従業員が採用されるとプランナがデモグラフィクスを割り当てます。

要員では、デモグラフィクスなどの情報のレポート用にデータ・マップが提供されません。

[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

---

## 従業員プロパティ オプション

従業員プロパティ(従業員タイプなど)を設定します。プロパティ(スキル・セット、FT/PT、開始月、功績月、採用ステータスなど)を追加、インポートまたはエクスポートします。その後、従業員プロパティを表示および編集するには、「報酬プランニング」→「従業員の詳細の管理」タブを使用します。

[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

---

## 報酬以外の費用 オプション

報酬以外の費用(研修や出張費用など)を設定します。報酬以外の費用を追加、インポートまたはエクスポートします。報酬以外の費用を追加したら、フォームにデータを入力します(「その他費用」→「報酬以外の費用」)。

[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

---

## パフォーマンス・メトリック オプション

コンポーネントのパフォーマンス・メトリックを追加、インポート、エクスポートまたは削除します。たとえば、パフォーマンス評価(「期待を満たす」や「期待を超える」など)を追加します。

[勘定科目とドライバの追加および管理](#)を参照してください。

---

## 功績レート 必須

年ごとの功績レートを定義します。功績レートを適用するシナリオ、バージョンおよび通貨を選択します。

---

## 従業員 オプション

組織の従業員名および従業員番号をメンバーとして「従業員」ディメンションにインポートします。

---

ジョブ

オプション

組織のジョブをメンバーとして「ジョブ」ディメンションにインポートします。

---

スキル・セット

オプション

メンバーのインポートによって、組織で使用されるスキル・セットを「スキル・セット」ディメンションにインポートします。

---

組合コード

オプション

メンバーのインポートによって、組織で使用される組合コードを「組合コード」ディメンションにインポートします。

---

性別

オプション

メンバーを「性別」ディメンションにインポートします

---

最終学歴

オプション

メンバーのインポートによって、組織で使用される最終学歴を「最終学歴」ディメンションにインポートします。

---

年齢層

オプション

メンバーを「年齢層」ディメンションにインポートします。従業員の年齢は、経時的な変化に伴って計算され、年齢層に割り当てられます。

注意:

独自の年齢層をロードするのではなく、デフォルトの年齢層を使用することをお勧めします。

注意:

既存の顧客は、引き続き既存の年齢層およびメンバーを使用してください。

---

<カスタム・ディメンション名、

オプション

メンバーをディメンションにインポートすることによって、追加したディメンシ

「Projects」 など>   
ン(プロジェクトなど)をアプリケーションに移入します。

---

グローバル  
仮定 必須

複数通貨アプリケーションの外国為替レートを設定します。

---

---

---

---

---

[データのインポート](#)を参照してください。ディメンション・エディタを使用してメンバーを追加することもできます。

ヒント:

ディメンションとメンバーをインポートしたら、ディメンション・エディタで階層構造を確認できます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. プランニングと予測の準備

## プランニングと予測の準備

各ビジネス・プロセスについてプランの時間枠および粒度を構成できます。構成設定は個別に格納されるため、ビジネス・プロセスや年ごとに異なる時間枠と粒度を設定できます。

プランの時間枠および粒度を構成するには:

1. 「現在の会計年度」で現在の会計年度を選択します。
2. 「期間」から、現在の実績月を選択します。この値は毎月更新する必要があります。
3. 「プラン開始年」には、プランナが現在の会計年度と次の計年度のどちらでプランニングを行うかを指定します
4. 「プラン」、「年」列を順にクリックして、構成する年を選択します。たとえば、10年のアプリケーションの最初の5年間を構成するには、5年間を選択します。
5. 構成する各年のプランニングの基準を選択します。毎年同じ間隔でプランを準備する場合は、「すべて」をクリックしてから間隔(たとえば「月次」)を選択します。年によって異なる間隔でプランを準備する場合は、各年の行で間隔を選択します。たとえば、FY18では月ごと、FY19では四半期ごとにプランニングする場合、FY18の行では「月次」、FY19の行では「四半期ごと」を選択します。
6. 「予測」をクリックし、これまでの手順を繰り返して予測の基準を指定します。

この構成タスクによって、必須代替変数がすべて設定されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. 勘定科目とドライバの追加および管理

## 勘定科目とドライバの追加および管理

勘定科目とドライバを追加または変更するには:

1. アカウントまたはドライバを設定する構成タスクを選択します。
2. リストからコンポーネントまたはカテゴリを選択します(ある場合)。
3. 次のタスクを実行します。
  - アーティファクトを追加するには、「アクション」メニューから「追加」を選択して、新しい行に詳細を入力します。
  - 一連のアーティファクトの変更または多数のアーティファクトの新規追加を行うには、事前定義済アーティファクトのセットをエクスポートして(「アクション」メニューの「エクスポート」を選択)、エクスポート・ファイルをExcelで変更します。事前定義済アーティファクトの編集や、アーティファクトのコピー作成と変更を行って、新しいアーティファクトを作成したり、新しいアーティファクトを追加したりします。その後、変更したファイルをインポートします(「アクション」メニューから「インポート」を選択します)。可能な場合には、カテゴリやサブカテゴリを使用して、関連する機能のアーティファクトをまとめます。
  - カテゴリまたはグループに関係なく、すべてのドライバをエクスポートまたはインポートするには、「バッチ・エクスポート」または「バッチ・インポート」を使用します。
  - 特定の種類のドライバのみをエクスポートまたはインポートするには、「カテゴリ」または「コンポーネント」を指定してから「インポート」または「エクスポート」を使用します。

注意:

- カスタム・メンバーについて一意のメンバー名と別名を指定して、提供されているメンバーと競合しないようにします。
- ドライバを削除する必要がある場合は、グループ内の他の勘定科目ドライバの式を調べて、削除しようとするドライバを参照するものがあるかどうか確認します。参照している場合は、削除に対応するようにロジックを更新します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. グローバル仮定の設定: 為替レート

## グローバル仮定の設定: 為替レート

複数通貨アプリケーションを作成した後で為替レートを設定します。為替レートは次に説明するように手動で入力することもインポートすることもできます。為替レートのインポートの詳細は、*Oracle Planning and Budgeting Cloud Planning*の管理を参照してください。

為替レートを手動で設定するには:

1. 通貨ディメンションに各通貨のためのメンバーを追加します。
2. 「グローバル仮定」をクリックして、<基本通貨>に対する為替レートタスクを開きます。ここで、プランナが使用する通貨の為替レートを入力します。
3. 「視点」からメンバーを選択します。
4. 各期間および各通貨について平均為替レートと終了為替レートを入力して、フォームを保存します。

フォームの名前が<基本通貨>に対する為替レートに変更されます。<基本通貨>は、アプリケーションを作成したときに選択したレポート通貨です。たとえば、アプリケーションの基本通貨が「円」の場合、フォームは円に対する為替レートになります。これは、データの変換に使用される為替レートが対応する通貨をプランナに示し、プランナがシナリオ、年およびバージョンに固有のレートを入力できるようにします。

注意:

新しいバージョンを追加した場合は、そのバージョンに為替レートを入力する必要があります。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. 「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成

## 「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成

次の項では、福利厚生と税金ウィザードを使用して福利厚生、税金および追加所得を構成する方法を説明します。

ヒント:

「オプションおよび層」の有効な交差を、「コンポーネント」ディメンションのそれぞれの親に対して設定できます。有効な交差の設定の詳細は、*Oracle Planning and Budgeting Cloud Planning*の管理を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. 福利厚生と税金ウィザードを使用する前に

## 福利厚生と税金ウィザードを使用する前に

ウィザードを起動する前に、次のタスクを実行したことを確認します:

- 要員の「構成」ページの「コンポーネント」を使用して、「福利厚生」、「税金」および「追加所得」をインポートしました。コンポーネントをインポートすると、そのコンポーネントがウィザードで使用できるようになります。
- 「構成」ページで「オプションおよび層」を構成して、「福利厚生」、「税金」(オプション)および「追加所得」(層)を設定しました。これによってオプションと層が作成されます。

これで、福利厚生と税金ウィザードを起動して、「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の各オプションを定義する準備が整いました。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. 福利厚生と税金ウィザードについて

## 福利厚生と税金ウィザードについて

ウィザードは、ビジネスに基づく質問を使用して、「福利厚生」や「追加所得」のオプションを定義し、税金(雇用主負担)の層を定義する手順を進めます。

例:

- 追加所得: 「残業手当」、「功績昇給」
- 福利厚生: 「健康保険」、「住宅ローン」、「車両手当」
- 雇用主負担税: US FICA、Canada Pension Plan (CPP)

ウィザードでは、税率が均等金額か給与の割合か、発生するのが月、四半期、年かなど、ロジックを指定します。また、ウィザードを使用して税金、福利厚生、追加所得を管理することもできます。各コンポーネントはシナリオやバージョンによって変わります。

ウィザードを起動するには、「構成」で「福利厚生と税金」リンクをクリックします。「フィルタ」を使用して、構成するコンポーネントを選択します。3つの手順、「詳細」、「レート」、「確認」が順に表示されます。

注意:

- すべてのエンティティがレートおよびしきい値を持っていることを確認してください(コンポーネントでしきい値を使用する場合)。同じレートおよびしきい値をグローバルに適用する場合、ソース・エンティティから「すべてのエンティティでレートをコピー」ルールを実行します。[階層別のレートの適用](#)を参照してください。
- 福利厚生、税金または追加所得のエンティティ・デフォルトを更新するたびに、「デフォルトの同期」ルールを実行して、従業員/ジョブ・レベルでエンティティ・デフォルトを適用する必要があります。ウィザードで既存のコンポーネント(福利厚生、税金または追加所得)を更新した場合、「報酬の定義の同期」ルールを実行して、更新済の定義を従業員およびジョブにプッシュする必要があります。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. コンポーネントの共通プロパティ

## コンポーネントの共通プロパティ

「追加所得」、「福利厚生」および「税金」では特定のプロパティが共通です。

各コンポーネントは次のプロパティを共有します。

- 「支払期間」(「月次」、「四半期ごと」、「年次」など)。
- 「支払い頻度」(「一括支払い」または「期間最後に支払い」など)。「支払い頻度」は「支払期間」に結び付けられます。
- コンポーネント・タイプ: 「標準」、「レート表」、しきい値を含むレート表および「カスタム」。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. ウィザードでのコンポーネントのタイプ

## ウィザードでのコンポーネントのタイプ

「詳細」画面で、福利厚生、税金または追加所得のコンポーネント・タイプ(計算レート・タイプ)を選択します。

コンポーネント・タイプ:

- 標準 - しきい値を含む年ごとの単純レート・オプション。次に、必要なオプションをデフォルトとして適切なドライバに割り当てます。「標準」コンポーネント・タイプは、すべてのデフォルトについてしきい値を含む単一レートのオプションまたは層であるため、1行しかありません。「追加所得」と「福利厚生」では「オプションなし」、「税金」では「層なし」です。
- レート表 - しきい値のない異なるレート・オプションが提供されます。このコンポーネント・タイプでは、必要なオプションまたは層をデフォルトとして適切なドライバに割り当てます。レート表には、オプションと層の行が表示され(これらのオプションと層の行は「構成」ページの「オプションおよび層」で定義したもの)、しきい値は割り当てられていません。
- レート表およびしきい値 - しきい値を含む様々なレート・オプションが提供されます。このコンポーネント・タイプでは、必要なオプションまたは層をデフォルトとして適切なドライバに割り当てます。しきい値を含むレート表には、前に構成されたしきい値を含むオプションまたは層の行が表示されます。「追加所得」と「税金」では、「しきい値金額」の「最大値タイプ」がサポートされます。デフォルトで割り当てられるオプションまたは層に関係なくすべての層が対象になります。
- カスタム - コンポーネントの追加所得、福利厚生または税金に対してカスタム計算ロジックを作成できます。[コンポーネントでのカスタム計算ロジックの作成](#)を参照してください。

ヒント:

しきい値は、結果の費用値に対する上限または最大値です。たとえば、「車両手当」は、しきい値の\$4,000までは給与の割合です。これを超えると、「車両手当」福利厚生は停止されます。上限に達するとレートが変わります。たとえば、最初の層(しきい値\$50,000まで)の税率は4.5%、2番目の層(\$100,000まで)は12.6%です。しきい値が層構造に適用されるだけでなく、最大値を「追加所得」、「福利厚生」、「税金」の計算に設定することもできます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. 一括支払いオプションについて

## 一括支払いオプションについて

一括支払いオプションを使用すると、追加所得、福利厚生または税金の支払月を指定できます。これらのオプションは、コンポーネントに選択した「支払期間」に応じて変化します。

たとえば、2月と8月の6か月ごとに1回、福利厚生を支払う必要がある場合、「半期ごと(カレンダー)」として「支払期間」を、「支払頻度」として「一括支払い」を、一括支払いオプションで2番目の月を選択します。

別の例: 「支払期間」が「年次(会計年度)」である場合、「支払頻度」として「一括支払い」を選択すると、会計年度で1回、一括支払いが発生します。一括支払いオプションでは、費用を計算するための会計年度の月(1番目から12番目まで)を選択できます。会計年度が7月に開始する場合、11番目の月を選択すると、費用は5月に追加されます。

福利厚生と税金ウィザードのこれらの新しいオプションには、コンポーネントの「詳細」ページでアクセスできます。

前次 この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. 「最大値タイプ」について

## 「最大値タイプ」について

「最大値タイプ」はウィザードの「詳細」ページで設定します。

Name: FICA  
Component Type: Rate Table and Threshold  
Description:   
Payment Terms: Monthly (Calendar Year)  
Payment Frequency: Pay During First Period  
Value Type: Percentage of Taxable Earnings  
Maximum Value Type: Threshold Amount

「最大値タイプ」を「しきい値金額」に設定できるのは、「税金」の場合のみです(「追加所得」または「福利厚生」では設定できません)。「最大値タイプ」を「しきい値金額」に設定した場合、各層のしきい値によって層の計算が導出されます。アプリケーションは、デフォルトで割り当てられている層には関係なく、必要に応じてすべての層をデフォルト割当てに適用します。

「最大値タイプ」が「しきい値金額」に設定されない場合は、各オプションまたは層の行の割当てが関連するため、適切に割り当てる必要があります。

「最大値タイプ」を「しきい値金額」に設定する例として、**US FICA**税を使用します。すべての行が該当するため、デフォルトとして割り当てられる行はありません。税率は、給与**\$118,500**までは**7.65%**、**\$118,500**を超えて**\$200,000**までは**1.45%**です。**\$200,000**を超える分には税率**2.35%**が適用されます。(デフォルトを割り当てるときもオプションまたは層を選択する必要がありますが、計算で無視されます。)

例:

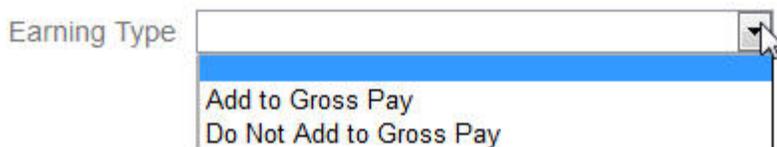
Entity	Scenario View	Version View	Currency	Component	FY16		FY17		FY18		
No Entity	Plan	Working	USD	FICA	Rate	Threshold	Rate	Threshold	Rate	Threshold	
					Tier1	7.65	118,500	7.65	119,000	7.65	120,000
					Tier2	1.45	200,000	1.45	200,000	1.45	200,000
					Tier3	2.35	99,999,999	2.35	99,999,999	2.35	99,999,999

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. 「所得タイプ」について

## 「所得タイプ」について

「所得タイプ」は「追加所得」のみで有効です。



所得タイプ「総支払に追加」および「総支払に追加しない」は、総所得から福利厚生と税金の「値のタイプ」と「最大値タイプ」を導き出します。したがって、「所得タイプ」が「総支払に追加」に設定されると、それらの追加所得は「総所得の割合」に基づいて福利厚生と税金に組み込まれます。

「所得タイプ」が「総支払に追加しない」に設定されると、「所得タイプ」と「最大値タイプ」に「総所得の割合」を使用する福利厚生または税金は、「総所得の割合」に基づく福利厚生または税金からそれらの追加所得を除外します

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. 「課税対象コンポーネント」について

## 「課税対象コンポーネント」について

「課税対象コンポーネント」は、「追加所得」または「福利厚生」が「はい」に設定されている「所得タイプ」と同様に動作します。「課税対象コンポーネント」はすべての税金計算に含まれるためです。この場合、「値のタイプ」または「最大値タイプ」は「課税所得の割合」に設定されています。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. レートの入力について

## レートの入力について

福利厚生と税金ウィザードで、期間別およびエンティティ別にコンポーネントのレートとロジックを入力できます。年間に変動するレートを考慮して、報酬費用に対するその影響を評価できます。たとえば、7月中に変動する税率を考慮できます。

福利厚生と税金ウィザードの「レート」ページが、「残高」に設定された「勘定科目」の「タイム・バランス」プロパティで縮小された「年合計」メンバーとともに開かれます。「年合計」に値を入力することができ、その値は自動的にその子の最後の期間に自動的に分散されます。既存の配分が存在しない場合(つまり、すべての子の値がゼロであるかまたは欠落している場合)、その値はすべての子に分散されます。または、「年合計」を展開して、レベル0のメンバーのレートを手動で入力または変更できます。

前次 この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. レートおよびしきい値のスコープについて

## レートおよびしきい値のスコープについて

コンポーネントの「しきい値のスコープ」オプション(「YTD」または「月次」)では、月または年ごとに独立して計算される追加所得、福利厚生または税金のレート層を設定できます。たとえば、保険プログラムでは、月ごとにゼロから開始するレート層を適用できます。

この例では、財務の従業員の所得が\$4,000であり、税金が給与の割合として定義され、「しきい値のスコープ」が「月次」で3つのレート層があるとします。

Scenario Plan	Version Working	Currency USD	Entity Finance US
		FY18	
		Rate	Threshold
		YearTotal	YearTotal
Tier1		12	1000
Tier2		20	3000
Tier3		30	5000

その税率は、最初の1,000の月次報酬に対しては12%、1,000から3,000までの所得に対しては20%、3,000から5,000までに対しては30%です。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. 階層別のレートの適用

## 階層別のレートの適用

「すべてのエンティティでレートをコピー」ルールを使用して、エンティティ階層のセクション内のメンバーに、同じレートおよびしきい値を適用できます。このルールを使用すると、レート・データを手動で入力またはインポートする必要がなくなります。

「すべてのエンティティでレートをコピー」ルールは、エンティティのメンバーが追加所得、福利厚生または税金に同じレートおよびしきい値を使用する場合、特に便利です。「レート」ページで、「アクション」メニューからこのルールを実行することで、コンポーネントのレートおよびしきい値を、あるエンティティから階層の別のセクションにコピーできます。「メンバー・セレクト」で、レートをコピーするソース・レベル0のエンティティ・メンバーと、レートのコピー先となるターゲットの親またはレベル0のメンバーを選択します。

たとえば、フランスの福利厚生のレート・データを入力し、「すべてのエンティティでレートをコピー」を使用して、関係関数を通じて福利厚生レートをヨーロッパ合計のすべてのレベル0の子孫と、北ヨーロッパ合計のレベル0の子孫にコピーできます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. コンポーネントでのカスタム計算ロジックの作成

## コンポーネントでのカスタム計算ロジックの作成

カスタム・コンポーネントで独自の要員計算を定義すると、非常に柔軟に条件ロジックを適用して、追加所得、福利厚生または税金の計算に値ドライバを指定できます。

たとえば、カレンダー年の最初の6か月に開始する新規採用には適用されるが、採用の初年におけるカレンダー年の最後の6か月に開始する新規採用には適用されないボーナス計算を作成できます。「均等金額」や「給与の割合」など、事前定義されたもの以外の値ドライバを選択することもできます。たとえば、歩合などの追加所得を、収益などの作成したカスタム・メンバーに基づかせることができます。値タイプ・ドライバとしてメンバーを指定するには、カスタム・コンポーネントのメンバー式にそれを含めます。

カスタム・コンポーネントのロジックをカスタマイズするには:

1. 福利厚生と税金ウィザードの「詳細」ページで既存のコンポーネントを編集し、「コンポーネント・タイプ」で「カスタム」を選択します。
2. コンポーネントの設定を続けます(カスタム・ロジックで使用するレートをオプションで入力するなど)。

メンバー式に任意のしきい値を含めます。

3. 「プロパティ」ディメンションのOWP\_Custom Expenseメンバーに対してメンバー式を作成します。
  - a. ホームページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」の順に選択します。
  - b. 「キューブ」の右側の下矢印をクリックし、OEP\_WFPを選択します。
  - c. 「プロパティ」をクリックし、「メンバー名」列ヘッダーを右クリックして、「デフォルト・モード」をクリアします。
  - d. OWP\_Custom Expenseメンバーを選択し、OEP\_WFP Formula列まで右にスクロールして、交差セルをクリックします。
  - e. グリッドの左上で、「メンバー式」 アイコンをクリックします。
  - f. メンバー式を入力します。

注意:

- カスタム計算ロジックを作成する前に、最初に事前定義済計算の使用を詳細に調査することをお勧めします。
- アプリケーションを本番環境に移行する前に、カスタム式のパフォーマンスを評価してください。
- 複数のカスタム・コンポーネントを作成して使用するには、各コンポーネントのカスタム・ロジックを受け入れるようにOWP\_Custom Expenseメンバー式を変更します。たとえば、各カスタ

ム・コンポーネント・タイプに対してネストされた**IF**条件を使用します。

ヒント:

計算ロジックのカスタマイズの詳細といくつかのサンプル式については、次のトピックを参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. [コンポーネントでのカスタム計算ロジックの作成](#)
7. OWP\_Custom Expenseのカスタム式の作成

## OWP\_Custom Expenseのカスタム式の作成

次に示すヒントやサンプル式を使用すると、OWP\_Custom Expenseのカスタム式を作成する際に役立ちます。これらのヒントでは、アプリケーション粒度が「従業員とジョブ」と仮定します。

- 「支払期間」、「支払頻度」、「値のタイプ」などのプロパティのデータは、従業員とジョブの組合せで、対応する「プロパティ」メンバー→通貨なし→「BegBalance」→「勘定科目」(福利厚生1:10/所得1:10/税1:税10)に格納されます。
- レートは、従業員とジョブの組合せで、OWP\_Value→「通貨」→「勘定科目」(福利厚生1:10/所得1:10/税1:税10)に格納されます。
- しきい値は、従業員とジョブの組合せで、OWP\_Maximum Value→「通貨」→「勘定科目」(福利厚生1:10/所得1:10/税1:税10)に格納されます。
- 期間を評価して、異なる「支払期間」オプションに応じて月の「暦期間-インデックス」に基づき費用を計算するために、付属の式を参照できます。
- 複数のカスタム式を追加するには、OWP\_Custom Expenseのメンバー式でそれらをネストします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. [コンポーネントでのカスタム計算ロジックの作成](#)
7. 福利厚生と税金の計算のカスタマイズ

## 福利厚生と税金の計算のカスタマイズ

次の例を確認することで、福利厚生と税金の計算をカスタマイズする際に役立ちます。

### 使用例

歩合基準勘定科目(要員に付属していないカスタムの勘定科目)のパーセンテージとして歩合を計算するとします。歩合は、福利厚生と税金ウィザードで入力されたレートと、カスタムの歩合基準勘定科目を掛けて計算します。

### サンプル式

```
IF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_EarningList.Commission])
  IF(@ISMBR(@RELATIVE("OWP_Existing_Employees",0)))
    "Commission Basis"->"No Property" * ("OWP_Value"/100);
  ELSE
    #Missing;
  ENDIF
ENDIF
```

### 使用例

前述の例を基盤として、「功績」勘定科目のパーセンテージとして計算される「保険」という福利厚生を、福利厚生と税金ウィザードで選択した次の値とともに追加するとします。

- コンポーネント・タイプ - カスタム
- 支払期間 - 四半期ごと(カレンダー年)
- 支払頻度 - 期間最初に支払い
- 最大値タイプ - 均等金額
- しきい値のスコープ - YTD
- 課税対象コンポーネント - はい
- すべての月のレート - 10
- しきい値—400
- 値のタイプ - 福利厚生はカスタム・ロジックで「功績」のパーセンテージとして計算するため、「値のタイプ」には任意の値を選択できます。

### サンプル式

```
IF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_EarningList.Commission])
  IF(@ISMBR(@RELATIVE("OWP_Existing_Employees",0)))
    "Commission Basis"->"No Property" * ("OWP_Value"/100);
  ELSE
    #Missing;
  ENDIF
ELSEIF("No Property"->"BegBalance"==[OWP_BenefitList.Insurance])
  IF("Cal TP-Index"==1 OR "Cal TP-Index"==4 OR "Cal TP-Index"==7 OR "Cal TP-Index"==10)
    "OWP_Expense amount"="OWP_Merit"->"OWP_Expense amount"*("OWP_Value"/100);
  ENDIF;
```

```

IF ("OWP_Expense amount" != #MISSING)
  IF ("OWP_Calculated Max Value" != #MISSING)
    IF ("OWP_CYTD(Prior)" + "OWP_Expense amount" > "OWP_Calculated Max Value")
      IF ("OWP_CYTD(Prior)" <= "OWP_Calculated Max Value")
        "OWP_Expense amount" = "OWP_Calculated Max Value" - "OWP_CYTD(Prior)";
      ELSE
        "OWP_Expense amount" = #MISSING;
      ENDIF;
    ENDIF;
  ENDIF;
ENDIF;

```

## 使用例

前述の例を基盤として、「福利厚生1」、「福利厚生2」、「福利厚生3」、「福利厚生4」のパーセンテージとして計算されるSUTAという税金(層型税金)を、福利厚生と税金ウィザードで選択した次の値とともに追加するとします。

- コンポーネント・タイプ - カスタム
- 支払期間 - 月次
- 最大値タイプ - しきい値
- しきい値のスコープ - 月次
- 「レート」ページではレートを指定しません。
- カスタムの層型税金では、レートをカスタム式の一部として指定する必要があります。

## サンプル式

```

IF ("No Property" -> "BegBalance" == [OWP_EarningList.Commission])
  IF (@ISMBR(@RELATIVE("OWP_Existing Employees", 0)))
    "Commission Basis" -> "No Property" * ("OWP_Value" / 100);
  ELSE
    #Missing;
  ENDIF
ELSEIF ("No Property" -> "BegBalance" == [OWP_BenefitList.Insurance])
  IF ("Cal TP-Index" == 1 OR "Cal TP-Index" == 4 OR "Cal TP-Index" == 7 OR "Cal TP-Index" == 10)
    "OWP_Expense amount" = "OWP_Merit" -> "OWP_Expense amount" * ("OWP_Value" / 100);
  ENDIF;
  IF ("OWP_Expense amount" != #MISSING)
    IF ("OWP_Calculated Max Value" != #MISSING)
      IF ("OWP_CYTD(Prior)" + "OWP_Expense amount" > "OWP_Calculated Max Value")
        IF ("OWP_CYTD(Prior)" <= "OWP_Calculated Max Value")
          "OWP_Expense amount" = "OWP_Calculated Max Value" - "OWP_CYTD(Prior)";
        ELSE
          "OWP_Expense amount" = #MISSING;
        ENDIF;
      ENDIF;
    ENDIF;
  ENDIF
ELSEIF ("No Property" -> "BegBalance" == [OWP_TaxList.SUTA])
  IF ("OWP_Benefit1" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit2" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit3" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit4" -> "OWP_Expense amount" <= 1000)
    "OWP_Expense amount" = ("OWP_Benefit1" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit2" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit3" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit4" -> "OWP_Expense amount") * (10/100);
  ELSEIF ("OWP_Benefit1" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit2" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit3" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit4" -> "OWP_Expense amount" <= 1200)
    "OWP_Expense amount" = (("OWP_Benefit1" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit2" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit3" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit4" -> "OWP_Expense amount") - 1000) * (20/100) + 1000 * (10/100);
  ELSEIF ("OWP_Benefit1" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit2" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit3" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit4" -> "OWP_Expense amount" <= 1300)
    "OWP_Expense amount" = (("OWP_Benefit1" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit2" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit3" -> "OWP_Expense amount" + "OWP_Benefit4" -> "OWP_Expense amount") - 1200) * (30/100) + (1200 - 1000) * (20/100) + 1000 * (10/100);
  ELSE
    "OWP_Expense amount" = (1300 - 1200) * (30/100) + (1200 - 1000) * (20/100) + 1000 * (10/100);
  ENDIF
ENDIF

```

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. ウィザードを使用して構成した後で

## ウィザードを使用して構成した後で

ウィザードを使用して「追加所得」、「福利厚生」および「税金」を構成した後で、次のタスクを実行します:

- 給与、追加所得、福利厚生および税金のデフォルトを割り当てます。[デフォルトの設定](#)を参照してください。
- 「新規採用」の「給与等級」のデフォルト値を割り当てます。
- デフォルトに従業員(「従業員」のみまたは「従業員とジョブ」の粒度)およびジョブ(「ジョブ」のみの粒度)に割り当てるには、「デフォルトの同期」ルールを実行します。このルールは、新規採用者と既存の従業員またはジョブの両方に適用されます。

単一の従業員またはジョブに対して、または従業員とジョブの組合せに対してルールを実行するには、フォームでその行を選択し、「アクション」、「デフォルトの同期」の順にクリックします。「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「既存の従業員」の順にクリックします。親レベルの従業員/ジョブに対してルールを実行するには、「アクション」、「ビジネス・ルール」、「デフォルトの同期」の順にクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. 例 - 付加給付の追加

## 例 - 付加給付の追加

この例では、新しい付加給付を作成する手順を説明します。たとえば、福利厚生を従業員の給与のパーセンテージに設定するとします。北米、EMEAおよびAPACの従業員に、33%から35%の範囲で別々のパーセンテージを指定します。

開始前の前提条件は次のとおりです:

- 少なくとも「費用プランニング」、「報酬費用」および「福利厚生」に対して要員を有効にしておきます。(3つの粒度レベルすべてで福利厚生がサポートされます。)
- アプリケーション・メタデータをインポートして、付加給付率コンポーネント・メンバーを追加しておきます。
- ユーザー変数を設定しました。

前次 この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. [例 - 付加給付の追加](#)
7. 付加給付をコンポーネントとして追加

## 付加給付をコンポーネントとして追加

まず、福利厚生と税金ウィザードを使用して、新しい福利厚生を作成します。

1. ホームページで「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。
2. 「構成」リストで、▼、「要員」の順にクリックします。
3. 構成: 要員で、「オプションおよび層」をクリックします。

### Configure: Workforce

Filter: All Types All Statuses

Name	Type	Status	Executed	Action
<b>Component</b> Import Grades, Taxes, Benefits & Additional Earnings	Metadata Optional	Not Configured		
<b>Entities</b> Import Entities	Metadata Mandatory	Not Configured		
<b>Salary Grades</b> Define salary basis and rates for Salary Grades	Maintenance Mandatory	Not Configured	demoadmin 11/7/16 4:16 PM	
<b>Options and Tiers</b> Set options for Additional Earnings/Benefits & tiers for Taxes	Metadata Optional	Not Configured		
<b>Planning and Forecast Preparation</b> Set the timeframe and granularity for plans	Maintenance Mandatory	Not Configured	demoadmin 3/13/17 5:23 PM	
<b>Benefits and Taxes</b> Set up Benefits, Taxes, and Additional Earnings	Metadata Mandatory	Not Configured		

4. 「オプションおよび層」の「コンポーネント」で、「オプション」を選択します。
5. 「アクション」から「追加」を選択し、テキスト・ボックスに「Fringe Rate – North America」と入力します。この手順を繰り返して、EMEAおよびAPACのオプションを追加します:

Fringe Rate - North America	
Fringe Rate - EMEA	
Fringe Rate - APAC	

6. 「保存」、「次」、「閉じる」の順にクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. [例 - 付加給付の追加](#)
7. 付加給付の定義

## 付加給付の定義

次に、福利厚生と税金ウィザードを使用して、付加給付オプションのレートを設定します。

1. 構成: 要員で、「福利厚生と税金」をクリックします。
2. 「フィルタ」  をクリックします。
3. 「コンポーネント」から、付加給付のシナリオおよびバージョンを選択し、「福利厚生」、「適用」の順にクリックします:

### Filter

Apply

Cancel

Scenario	OEP_Plan
Version	OEP_Working
Components	Benefits

4. 「詳細」で、付加給付パラメータを設定します:



Name	Fringe Benefit Rate
Component Type	Rate Table
Financial Account	Other Benefits
Description	Fringe benefits for North America, South America, EMEA, and APAC with different rates for each.
Payment Terms	Monthly (Fiscal Year)
Payment Frequency	Pay During First Period
Value Type	Percentage of Salary
Maximum Value Type	
Taxable Component	No

5. 「保存」、「次」の順にクリックします。
6. 「レート」で、各年の給付レート・オプションごとに付加給付レートを入力します。



[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [要員の構成](#)
5. [「福利厚生」、「税金」および「追加所得」の構成](#)
6. [例 - 付加給付の追加](#)
7. 福利厚生のデフォルトの設定

## 福利厚生のデフォルトの設定

次に、各親エンティティ(North America、EMEAおよびAPAC)の子メンバーの福利厚生デフォルトを設定します。

1. ホームページで「要員」をクリックします。
2. 「報酬プランニング」、「デフォルト」、「福利厚生」の順にクリックします。
3. 「POV」からエンティティ・メンバーを選択します。

この例では、「Sales Italy」の福利厚生デフォルトを設定します。

4. 「アクション」、「福利厚生のデフォルトの追加」の順にクリックします。
5. 「福利厚生のデフォルトの追加」の「福利厚生」で、付加給付レートを選択し、「オプション」で付加レート - EMEAを選択します。

### Add Benefit Defaults



\* Benefit

\* Job

\* Union Code

\* Option

6. 「起動」をクリックします。

これで、「雇用予定者の追加」ビジネス・ルールを使用して) Sales Italyに採用要請を追加するたびに、EMEAに設定した新しい付加給付レート(例: 2017年の34%)が適用されます。付加給付を含む報酬が自動的に計算されます。(付加給付レートは、「デフォルトの同期」ビジネス・ルールを実行したときにも適用されます。)福利厚生と税金ウィザードを使用して付加給付レートを更新した場合、更新したレートを適用するために、「報酬の定義の同期」ビジネス・ルールを実行します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. 構成後のタスク

## 構成後のタスク

関連トピック

- [仮定の設定](#)
- [デフォルトの設定](#)
- [デフォルトの同期](#)
- [更新後のタスク](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [構成後のタスク](#)
5. 仮定の設定

## 仮定の設定

仮定(とデフォルト)によって、要員関連の費用の計算が導き出されます。仮定には次のようなものがあります。

- 日、週および月当たりの労働時間。時間給の従業員の給与費用に影響します。
- 部分的な支払係数(つまり、産休ステータスに適用する支払パーセンテージ)。
- 「給与等級」での給与基準(年次など)および給与レート。
- 給与計算に追加される功績レートを設定します。

エンティティ別に、または「エンティティなし」レベル(デフォルト仮定の場合)で、仮定を設定できます。仮定がエンティティに対して設定されている場合、それが計算に使用されます。設定されていない場合、エンティティなし(組織レベル)に設定されている仮定が使用されます。これに対する例外は、エンティティ・レベルで設定する必要のある「功績レート」です。

管理者は、構成時に要員仮定を設定します。権限が付与されている場合、プランナは必要に応じて

「報酬プランニング」、「仮定」 タブの順にクリックまたはタップして、それらを更新できます。

仮定を設定した後で、「デフォルトの同期」ルールを実行します([デフォルトの同期](#)を参照してください。)  
「給与」、「追加所得」、「福利厚生」および「税金」のデフォルトを設定するには、[デフォルトの設定](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [構成後のタスク](#)
5. デフォルトの設定

## デフォルトの設定

デフォルト(と仮定)によって、要員関連の費用の計算が導き出されます。

特定ジョブの全従業員に給与、追加所得、福利厚生または税金のデフォルトを使用する場合は、デフォルトの追加時にそのジョブを選択します。たとえば、ジョブのデフォルトの追加時に会計士を選択した場合、会計士であるすべての従業員にそのデフォルトが割り当てられます。

従業員とジョブの粒度が有効になっている場合、ジョブと組合コードに基づいてデフォルトを設定する必要があります。この設定により、特定ジョブの新規採用の報酬要素がデフォルト設定されます。たとえば、組合コードがトラック運転手である倉庫作業員に対して、デフォルトの給与等級を等級3に設定するとします。

報酬要素のデフォルトをすべてのジョブの全従業員に適用するには、給与、追加所得、福利厚生および税金のデフォルトを設定するときにOWP\_Allの<メンバー>を選択します。たとえば、すべてのジョブおよび組合の全従業員に対してデフォルトの報酬要素を使用する場合は、OWP\_All Union CodeメンバーおよびOWP\_All Jobsメンバーを選択します。したがって、たとえば、OWP\_All Union CodeメンバーとOWP\_All Jobメンバーを選択した場合、会計のSue Doe (組合コードがデフォルト(組合コードなし))と倉庫のTom Blue (組合コードがトラック運転手)の報酬要素のデフォルトは同じになります。

注意:

要員では、「組合コードなし」という名前のレベル0のメンバーが、「組合コード合計」の兄弟にシードされます。ただし、給与、追加所得、福利厚生および税金のデフォルトを追加する場合、スマート・リストで「組合コードなし」を選択することはできません。このニーズを満たすために、要員では、少なくとも1つのレベル0のメタデータ・メンバーを「組合コード合計」に追加する必要があります。

会社が「組合コード」を使用しない場合は、要員を有効にするときに、ディメンションの名前をビジネスにとって意味のある名前に変更できます。要員を有効にしたときに「組合コード」の名前を変更しなかった場合は、「組合コード」ディメンションに含めるメンバーを作成し、ディメンションの別名を好きな名前に変更できます。

「報酬プランニング」、「デフォルト」 タブの順にクリックまたはタップし、要員のデフォルトを設定します。次に:

- 「給与」のデフォルトを設定するには、「給与」をクリックします。これらのデフォルトは、

新規採用またはジョブ給与のデフォルトに使用されます。「仮定」、「給与等級」 の順に使用して、プランナは、インポートした「給与等級」の給与基準(「年次」や「1時間ごと」など)および給与レートを設定できます。

給与基準と給与レートをOEP\_No Entityメンバーにインポートすると、それらがすべてのエンティティで使用されます。または、「OEP\_No Entity」を選択します(「報酬プランニング」、「仮定」、「給与等級」)。

- 「追加所得」のデフォルトを設定するには、「追加所得」をクリックします。
- 「福利厚生」のデフォルトを設定するには、「福利厚生」をクリックします。
- 「税金」のデフォルトを設定するには、「税金」をクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [構成後のタスク](#)
5. デフォルトの同期

## デフォルトの同期

「構成」ページで福利厚生と税金ウィザードを使用して、福利厚生、税金または追加所得のエンティティ・デフォルトを更新するたびに、「デフォルトの同期」ビジネス・ルールを実行して、更新したデータを入力フォームにプッシュする必要があります。

1. 「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「既存の従業員」の順にクリックします。
2. 個人を含む行または空の行をハイライト表示します:  
対象にあわせて次のようにビジネス・ルールを実行します:
  - 1名の場合、その人物の名前を含む行をハイライト表示してからルールを実行します
  - 複数の人物の場合、または実行時プロンプトを使用してディメンションを選択する場合は、空の行をハイライト表示してからルールを実行します
3. 「アクション」、「ビジネス・ルール」、「デフォルトの同期」の順にクリックします。

ビジネス・ルールによって、フォームのデータが再計算されて更新されます。

注意:

コンポーネント(給与等級、福利厚生、税金、追加所得など)のメタデータを更新した場合は、「報酬の定義の同期」ビジネス・ルールを実行して、更新した定義を割当て済の従業員およびジョブにプッシュします。このルールは、エンティティ・デフォルトを更新しません。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. [構成後のタスク](#)
5. [更新後のタスク](#)

## 更新後のタスク

18.07月次パッチから要員のコンテンツを更新した後、次の変更にご注意してください。

現在の要員のユーザーにとって重要な情報は、次のとおりです。

- 要員のコンテンツを更新した直後に、新しいルール「1回限り - レートを月にコピー」を実行して、レートを「BegBalance」メンバーからすべての月にコピーする必要があります。このルールは、コンテンツを更新した直後に1回のみ実行します。このルールを実行するには、ホームページで「ルール」をクリックし、「すべてのキューブ」をクリックして、「キューブ」ドロップダウン・リストからOEP\_WFSCを選択します。次に、「1回限り - レートを月にコピー」ルールの「起動」をクリックします。
- この更新には、採用要請の管理の柔軟性を向上する新しい2つのルール（「要請の追加」および「要請の変更」）が含まれます。これらの新しいルールをユーザーが使用できるようにするには、ユーザーにルールへのアクセス権を付与する必要があります。これを行うには、ホームページで「ルール」、OEP\_WFPキューブ、新しいルール、「権限」アイコンの順に選択します。
- 18.07で使用可能な要員の機能拡張では、一部のアーティファクトの更新が必要です。これらのアーティファクトを変更していない場合、アーティファクトおよび機能は、18.07の更新で自動的に使用可能になります。この更新中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、これらのアーティファクトを更新済で、新機能を利用する場合は、付録の[新機能を使用するための要員アーティファクトの更新](#)の情報を参照してください。
- 「支払頻度」の設定が「一括支払い」に構成されたコンポーネントの場合: 一括支払いオプションを選択しないかぎり、コンポーネントの費用は、引き続き、選択した支払頻度の最初の月に発生します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. 要員のルール

## 要員のルール

要員のビジネス・ルールは、ここに記載されている状況で実行します。

ヒント:

ルールの実行パフォーマンスの拡張の推奨事項については、[要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項](#)を参照してください。

ビジネス・ルールを起動するには、「アクション」、「ビジネス・ルール」、ルールの順にクリックします。

- デフォルトの同期 - 福利厚生、税金または追加所得のエンティティ・デフォルトを更新した後、このルールを実行します。たとえば、新しい福利厚生を設定したり、既存の福利厚生をエンティティ・デフォルトから削除します。「新規採用」または「既存の従業員の管理」フォームからこのルールを実行すると、更新されたエンティティ・デフォルトが従業員/ジョブ・レベルでプッシュされます。右クリック・メニューを使用して「デフォルトの同期」を起動した場合は、選択されている従業員とジョブの組合せに対してこれを使用します。

対象にあわせて次のように「デフォルトの同期」ルールを実行します:

- 1人のみの場合、その人の名前を含む行を強調表示してから、ルールを実行します。
- 複数の人の場合、または実行時プロンプトでディメンションを選択する場合、空白部分を右クリックしてから、ルールを実行します。
- 報酬の定義の同期 - 既存の福利厚生、税金または追加所得を更新した後、このルールを実行します。たとえば、レート表、支払い頻度、給与等級または最大値を更新したとします。「報酬の定義の同期」を実行すると、更新されたコンポーネント定義が従業員およびジョブにプッシュされます。このルールは、エンティティ・デフォルトを更新しません。
- 報酬の計算 - フォームでデータを更新した場合、費用を再計算するために、「報酬の計算」ルールを実行します。たとえば、従業員のステータスを変更した場合、その従業員のFTEを確認してから、報酬の計算を実行します。
- ロードされたデータの処理 - 新しいデータをインポートした後、「ロードされたデータの処理」ルールを実行して、データをプランニング年範囲の必要な期間にコピーします。

注意:

「エンティティ合計」の下の子エンティティを選択することにより、ルール「デフォルトの同期」、「報酬の定義の同期」および「ロードされたデータの処理」を複数のエンティティに対して一度に実行できます。パフォーマンス上の理由から、1回のパスですべてのエンティティのルールを実行するかわりに、「エンティティ合計」で別の子を選択してルールの複数インスタンスを実行することをお勧めします。

注意:

ビジネス・ルールの実行時の無効なデータに関するエラー・メッセージが表示された場合、[ルールのエラー・メッセージのトラブルシューティング](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. [要員の構成](#)
4. 要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項

## 要員のルールにおけるパフォーマンスの考慮事項

これらのヒントを考慮することで、要員のルールの実行パフォーマンスを向上できる可能性があります。

- 要員のルールでは、FIXPARALLEL文が「エンティティ」ディメンションで実行されると仮定されますが、これは大量のデータを「エンティティ」ディメンションにロードする場合に理想的です。ただし、大量のデータを別のディメンション(たとえば、「プロジェクト」などのフレックス・ディメンション)にロードする場合、FIXPARALLEL文を変更してかわりに「プロジェクト」ディメンションに適用することで、パフォーマンスを向上できます。要員には、「デフォルトの同期」、「報酬の定義の同期」および「ロードされたデータの処理」ルールで使用されるOWP\_Fix Parallel\_Tというテンプレートがあります。最適なディメンションを反映するようにFIXPARALLEL文を変更すると、3つのすべてのルールでパフォーマンス強化が実現します。

ヒント:

FIXPARALLEL文に含める最適なディメンションを決定するには、現実的で代表的なデータを使用してテストを実行してみることをお勧めします。

OWP\_Fix Parallel\_Tテンプレートを変更するには:

1. {Department} (このテンプレートのデフォルトの「エンティティ」ディメンション)を、最適なディメンションに置き換え、後続のFIX文に適切なエンティティ選択を含めます。次の変更前と変更後の例を参照してください。

変更前:

```
SET UPDATECALC OFF;  
  
FIXPARALLEL(4,@RELATIVE({Department},0))  
  
FIX({Scenario}, {Version} [FlexDim1Fix] [FlexDim2Fix] [FlexDim3Fix] [CurrencyDTP])  
  FIX([EmpDimFix] [JobDimFix])
```

変更後: ProjectがFlexDim1で、サンプルのメンバー名("All Project"および"OEP\_Total Entity")を使用すると仮定して変更します。2番目のFIX文のEntityに対する参照の前に、カンマが挿入されることにも注意してください。

```
SET UPDATECALC OFF;  
  
FIXPARALLEL(4,@RELATIVE("All Project",0))  
  
FIX({Scenario}, {Version} ,@RELATIVE("OEP_Total Entity",0) [FlexDim2Fix]  
  [FlexDim3Fix][CurrencyDTP])  
  FIX([EmpDimFix] [JobDimFix])
```

注意:

テンプレートを変更する場合、設計時プロンプト(DTP)を確認して、構文(カンマなど)が有

効でバランスがとれていることを確認します。

## 2. 3つのルールを再デプロイします。

注意:

本番環境で変更を適用する前に、テスト・インスタンスで変更をテストしてください。

- 組織の通常のプラクティスで、「ロードされたデータの処理」を実行した直後に「デフォルトの同期」を実行する場合、同じ相対位置の「定義の同期」テンプレートのかわりに「デフォルトの同期」テンプレートを使用するように「ロードされたデータの処理」ルールを変更することで、実行時間を短縮できます。これを行うことで、「ロードされたデータの処理」ルールに「デフォルトの同期」テンプレートを含める場合には不要となる「定義の同期」テンプレートの実行時間を排除できます(「デフォルトの同期」には「定義の同期」のロジックが含まれているため)。
- **Oracle Fusion Human Capital Management**などの人事または給与計算システムのソースから追加所得、福利厚生および税金の割当てを直接ロードする場合、「デフォルトの同期」や「報酬の計算」を実行する必要はありません。この使用例で、ロードされたすべてのデータに対して報酬を計算する場合、「ロードされたデータの処理」を実行するのみで十分です(これには「報酬の定義の同期」が含まれるため)。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの管理](#)
3. 戦略要員プランニングと要員の更新

## 6 戦略要員プランニングと要員の更新

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudと要員を更新した場合、行ったカスタムの変更は維持されます。たとえば、ロック解除済の事前定義済アーティファクト(フォームなど)への変更は、内部的に追跡されます。アップグレード時、これらの変更済アーティファクトは変更されません。

注意:

ナビゲーション・フローを変更する予定がある場合は、事前定義済ナビゲーション・フローのコピーを作成して、オリジナルではなくコピーを変更することをお勧めします。更新時には、更新は元のナビゲーション・フローに適用され、変更したナビゲーション・フローには適用されません。

更新の前にアプリケーションはメンテナンス・モードとなり、管理者しかアプリケーションを使用できません。

メタデータの変更が検出された場合、コンテンツの更新前にデータベースがリフレッシュされます。検証エラーが検出された場合、コンテンツを更新するには、エラーを解決する必要があります。

ジョブ・コンソールを使用して、エラーを確認します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. 戦略要員プランニングの操作

## 第II部 戦略要員プランニングの操作

関連トピック

- [タスクの概要](#)
- [「平均報酬レート」の使用](#)
- [スキル評価プランニング](#)
- [需要プランニング](#)
- [供給プランニング](#)
- [需要と供給間のギャップの分析](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. タスクの概要

## 7 タスクの概要

関連トピック

- [戦略要員プランニングのワークフロー](#)
- [ユーザー変数の設定](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [タスクの概要](#)
4. 戦略要員プランニングのワークフロー

## 戦略要員プランニングのワークフロー

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudを使用して将来の要員要件を分析するには、実行するタスクを確認します。

戦略要員プランニングのワークフローの概要は、次のチュートリアル・ビデオを参照してください。



[チュートリアル・ビデオ](#)

一般に、タスクの実行は次の順序で行います：

1. 「戦略要員」  をクリックします。

2. ユーザー変数を設定します。

[ユーザー変数の設定](#)を参照してください。

3. 現在のジョブ別FTE、個々の従業員情報またはジョブ情報、および(「平均報酬」が有効になっ

ている場合は)平均報酬レートを評価します。「概要」  をクリックします。

[スキル評価プランニング](#)を参照してください。

4. 様々なスキルとジョブに対する従業員の評価を確認および更新します。「スキル評価」  をクリックします。

[スキルの評価と更新](#)を参照してください。

5. 要員の需要を計画します。「需要」  をクリックします。

[需要プランニング](#)を参照してください。

6. 減員などの側面を考慮して、クリティカルなジョブとスキルの組織の供給を分析します。「供

給」  をクリックします。

[供給プランニング](#)を参照してください。

7. 要員要件(需要)と使用可能なリソース(供給)のギャップを分析し、対処します。「ギャップ分



析」[需要と供給間のギャップの分析](#)をクリックします。

[需要と供給間のギャップの分析](#)を参照してください。

管理者が「要員」も有効にした場合、[要員のワークフロー](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [タスクの概要](#)
4. ユーザー変数の設定

## ユーザー変数の設定

このタスクは、機能が有効化され、構成された後に実行します。

各プランナは、次に説明する変数を設定する必要があります。

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、さらに「ユーザー変数」をクリックします。
2. 次のユーザー変数を設定します:
  - 通貨
  - エンティティ
  - ジョブ・タイプ
  - レポート通貨
  - シナリオ - 要員のシナリオを設定します
  - シナリオ・ビュー - **Oracle Strategic Workforce Planning Cloud**のシナリオを設定します
  - 「戦略開始年」と「戦略終了年」 - 戦略要員プランニングの場合、開始年と終了年を設定することで、スキル・セット・プランニングを年の範囲に制限します
  - バージョン
  - 年

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. 「平均報酬レート」の使用

## 8 「平均報酬レート」の使用

管理者は、ジョブの「平均報酬レート」を有効にし、戦略的として定義されているジョブについてそ

れらのレートをシードした可能性があります。または、「概要」、「平均報酬レート」の順にクリックしてジョブの平均報酬レートを入力できます。これらのレートが「需要FTE合計」および「供給FTE合計」と乗算され、「供給報酬」および「需要報酬」が生成されます。

これらのレートがジョブに対して定義されていると、ジョブの追加または排除の財務的影響を確認できます。

注意:

ここで入力する値は、要員の所得計算に関連しません。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. スキル評価プランニング

## 9 スキル評価プランニング

従業員およびジョブ情報が人事システムからインポートされた後で、従業員タイプ、FTE、年齢(「年齢ベースの退職」が有効になっている場合)、プライマリ・スキル・セットなど、戦略的ジョブに割り当てられている既存の従業員の情報を確認します。「平均報酬」が有効になっている場合は、それらのレートを確認し、必要に応じて更新できます。

従業員およびジョブ情報を確認するには、「戦略要員」、「概要」、水平タブの順にクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [スキル評価プランニング](#)
4. スキルの評価と更新

## スキルの評価と更新

管理者がスキル評価を有効にしている場合、戦略的ジョブの従業員スキルを評価できます。

従業員スキルの評価の詳細は、次のチュートリアル・ビデオを参照してください。



[チュートリアル・ビデオ](#)



「戦略要員」、「スキル評価」の順にクリックしてスキルを評価および更新します。次に、その水平タブを使用します:

[Skills Summary](#) | [Skills by Category](#) | [Skills by Employee](#) | [Employee Skill Details](#)

- 年をまたがってスキルの相対分布と相関を評価するには、「スキル・サマリー」をクリックします。ここで、各シナリオのプランニング年の平均スキル比較およびエンティティ別平均スキル相関をグラフィカルに表示します。
- カテゴリ別スキルの複数年のトレンドを評価するには、「カテゴリ別スキル」をクリックします。年、エンティティ、および「管理」や「テクニカル」などのスキル・カテゴリを比較できます。カテゴリにドリルインして、基になるデータを調べることもできます。(管理者はカテゴリを追加できます。)
- 特定のジョブを持つ個人ごとにスキル能力を評価および更新するには、「従業員別スキル」をクリックします。このフォームには、「戦略開始年」と「戦略終了年」の間のスキル・レベルの差異であるスキル・ギャップ・データが含まれます。たとえば、**Rob Stark**のスキル・ギャップが-1の場合、FY18までにJavaスキルが4(良い)と評価される必要があり、Javaスキルは現在3と評価されていることを示します。

このフォームには、通常はインポートすることにより、スキル評価がすでに存在する従業員のみが表示されます。従業員のスキルと評価を追加するには、[従業員のスキルと評価の追加](#)を参照してください。

- 個人のスキル・データを評価および更新するには、「従業員のスキル詳細」をクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [スキル評価プランニング](#)
4. 従業員のスキルと評価の追加

## 従業員のスキルと評価の追加

「従業員別スキル」フォームで、従業員のスキルと評価を追加できます。これを行うには、従業員の名前をクリックし、右クリックして「スキル評価」を選択します。「従業員別スキル評価」フォームが開き、評価されていないスキルが表示されます。スキルを移入し、フォームを保存します。スキルが「従業員別スキル」フォームに表示されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. 需要プランニング

## 10 需要プランニング

需要分析では、長期戦略に必要なリソース(人数またはFTEと戦略的なジョブ)を把握できます。この情報は、リソースのプランニングと必要なスキル・セットの準備をプロアクティブに行うのに役立ちます。

需要ドライバの操作の詳細は、次のチュートリアル・ビデオを参照してください。



[チュートリアル・ビデオ](#)



需要データを操作するには、「戦略要員」、、「需要」の順にクリックします。次に、その水平タブを使用します:

[Summary Demand FTE](#) | [Demand Driver Data](#) | [Demand Data by Entity](#) | [Demand FTE by Entity](#) | [Demand Data by Job](#)

- 戦略的なジョブの需要のグラフィカルなサマリーを表示するには、「需要FTEのサマリー」をクリックします。ジョブおよびエンティティ別の合計を表示できます。
- 需要ドライバおよび年別の需要データの計算ロジックを設定および更新するには、「需要ドライバ・データ」をクリックします。[需要ドライバについて](#)を参照してください。
- 需要ドライバに関するきめ細かい情報を提供するには、「エンティティ別需要データ」をクリックします。ここで、次を設定します:
  - 需要ドライバを選択するための仮定
  - 「需要ドライバ・データ」フォームで需要ドライバ・レベルで設定された計算ロジックをオーバーライドする場合の計算ロジック。これは必須ではありません。ジョブの計算ロジックをオーバーライドする場合にのみ計算ロジックをここで変更します。
  - 需要率と需要スケール。計算ロジックが「需要 = ドライバ / 比率」または「需要 = ドライバ \* 比率」の(または、式の定義方法に応じてカスタム計算ロジックを使用する)ドライバの率のみを入力します。「需要スケール」は、「需要ドライバのスケール係数」が有効で、計算ロジックが「前年の比率」に基づいている場合にのみ適用されます。
  - 「予想生産性向上係数」が有効になっている場合のジョブの予想生産性。[需要FTEでの生産性変化の係数化](#)を参照してください。

需要データは、「エンティティ別需要データ」または「ジョブ別需要データ」で表示できます。一方のフォームでは、「エンティティ」ディメンションはPOVにあり、「ジョブ」ディメンションは行にあります。もう一方のフォームでは、「ジョブ」ディメンションはPOVにあり、「エンティティ」ディメンションは行にあります。[エンティティまたはジョブ別の需要データの設定](#)を参照してください。

注意:

組織で特定のフォームにフォーカスを当て、他のフォームを非表示にするには、「ナビゲーション・フロー」を使用してこれを行うことができます。*Oracle Planning and Budgeting Cloud Planning*の管理のカスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

- エンティティ別の**FTE**を表示および調整するには、「エンティティ別**需要FTE**」をクリックします。
- ジョブおよびエンティティ別の**需要データ**を表示および更新するには、「**ジョブ別**需要データ****」をクリックします。下部のチャートは、年別の**需要FTE**と人数をグラフィカルに示します。
- 年別ジョブ別の**合計**需要FTE****を表示、調整および計算するには、「**ジョブ別**需要FTE****」をクリックします。必要に応じて、データを更新し、「アクション」、「**需要の計算**」の順にクリックします。
- 「平均報酬」が有効になっている場合は、「**需要報酬**」をクリックして、**FTE**計算に基づくジョブの**計算済報酬**を表示できます。このフォーム上の計算された値は読取り専用です。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [需要プランニング](#)
4. 需要ドライバについて

## 需要ドライバについて

「需要ドライバ・データ」タブで、業界を反映した需要ドライバのターゲットを設定します。ここで、需要データを入力し、一定期間にわたる需要の影響を参照します。次の数年で収益を倍増したいとします。これをサポートするには、会社に適切なリソースが必要です: 適切なスキルを持つ適切な人員が適切な時点で必要になります。需要ドライバを設定および操作することで、需要要件を管理します。需要ドライバの例: 収益単位、サポート担当者、生産担当者、サポート・コール、保険証券、トランザクションなど。

管理者は、**Oracle Strategic Workforce Planning Cloud**を構成するときに需要ドライバを構成します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [需要プランニング](#)
4. エンティティまたはジョブ別の需要データの設定

## エンティティまたはジョブ別の需要データの設定

様々なジョブは様々なドライバ計算に依存する可能性があり、ドライバ計算は需要データを計算します。たとえば、営業担当は収益営業ドライバに関連する場合があります。収益の\$1,000,000ごとに1人の営業担当が必要です。生産ライン担当者の数は、販売ユニット数ドライバから導出できます。顧客サポート・データは、サポート・コール数に関連することがあります。

「エンティティ別需要データ」または「ジョブ別需要データ」タブで、各戦略的ジョブに適した需要ドライバを割り当てます。一方のフォームでは、POVに「エンティティ」ディメンション、行に「ジョブ」ディメンションがあり、もう一方のフォームでは、POVに「ジョブ」、行に「エンティティ」があります。2つのフォームは、値を入力するために同じデータ・ポイントと指示を共有します。違いは、「エンティティ」ディメンションと「ジョブ」ディメンションに対して軸が反転することだけです。

「エンティティ別需要データ」タブと「ジョブ別需要データ」タブで、次の操作を行います：

- 各戦略的ジョブに適した需要ドライバを割り当てます。
- オプションで、「需要ドライバ・データ」フォームで需要ドライバ・レベルで設定されるデフォルトのドライバ計算ロジックへのオーバーライドを入力できます。ジョブの計算ロジックをオーバーライドする場合にのみ計算ロジックを変更します。
- 「需要ドライバのスケール係数」が有効で、計算ロジックが「前年の比率」に基づいている場合は、オプションの需要スケール係数を入力できます。[需要FTEのスケールリング](#)を参照してください。
- 「需要 = ドライバ / 比率」または「需要 = ドライバ \* 比率」(または、論理に応じて「カスタム」計算ロジック)に基づく計算ロジックの需要レートを入力します。

需要ドライバをジョブに割り当てるには：



1. 「需要」  をクリックします。
2. 「エンティティ別需要データ」または「ジョブ別需要データ」をクリックします。
3. 操作するエンティティと需要ドライバを割り当てるジョブを選択します。
4. 「仮定」で、需要ドライバを選択します。

管理者は、Oracle Strategic Workforce Planning Cloudを構成するときに需要ドライバを定義します。

5. 「需要ドライバ・データ」フォームで設定されたデフォルトの計算ロジックをオーバーライドするには、「計算ロジック」で、ジョブのドライバの計算方法を選択します：
  - 前年の比率

- 需要 = ドライバ / 比率
- 需要 = ドライバ \* 比率
- カスタム

6. 計算ロジックが「需要 = ドライバ / 比率」または「需要 = ドライバ \* 比率」(または、定義方法に応じて「カスタム」)のドライバの場合は、「需要率」でレートを入力します。次に例を示します。

- ドライバはコンサルティング収益で、これは\$15Mです
- 「パートナ」というジョブのレートは\$5Mです
- したがって、収益の\$5Mごとに、「パートナ」ジョブに1 FTEが必要です

7. 「需要スケール」で、スケーリング係数を入力します。

「需要スケール」は、「需要ドライバのスケーリング係数」が有効で、計算ロジックが「前年の比率」(またはその定義方法に応じて「カスタム」計算ロジック)の場合にのみ使用できます。[需要FTEのスケーリング](#)を参照してください。

8. 「予想生産性」で、生産性について考えられる増減を考慮して戦略的なジョブの予想需要を調整する値を入力します。

25%を示すには、「.25」と入力します。「予想生産性」は、「予想生産性向上係数」が有効になっている場合にのみ使用できます。[需要FTEでの生産性変化の係数化](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [需要プランニング](#)
4. 需要ドライバの計算ロジックの設定

## 需要ドライバの計算ロジックの設定

「需要ドライバ・データ」タブで、需要計算ロジックと各年の需要ドライバの値を設定します。

需要FTEを計算するドライバの計算ロジックを設定するには:



1. 「需要」  をクリックします。
2. 「需要ドライバ・データ」をクリックし、「計算ロジック」で次のいずれかを選択します:
  - 前年の比率: 需要は前年の需要率に基づき、「需要ドライバのスケール係数」が有効でスケールが設定されている場合に「需要スケール」値を適用します。計算ロジックが指定されていない場合は、「前年の比率」が適用されます。[需要FTEのスケール](#)および[需要FTEでの生産性変化の係数化](#)を参照してください。
  - 需要 = ドライバ / 比率: ドライバを比率で除算することで需要を導出します。たとえば、収益の\$5百万ごとに、パートナが必要です。
  - 需要 = ドライバ \* 比率: ドライバに比率を乗算することで需要を導出します。たとえば、処理単位とコストを乗算します。
  - カスタム: 動的に計算されたメンバー需要FTEカスタムにカスタム・メンバー式を使用して需要を導出します。事前定義済の計算ロジックがニーズに適合しない場合、管理者はディメンション・エディタを使用してカスタム・メンバー式を作成できます。

たとえば、需要FTEを52として返す単純なメンバー式を次に示します:

```
IF ("OWP_Calculation Logic" -> "OWP_Headcount Driver" -> "No Year" -> "Begbalance" == [OWP_Demand_CalcLogic.Custom]) "OWP_Demand FTE" -> "No Property" = 52; ENDIF;
```

注意:

メンバーがフォームで使用されているため、式のOWP\_Demand FTE勘定科目メンバーを参照してください。メンバー需要FTEカスタムは式で使用されていません。また、式が適切で、パフォーマンスに影響しないことを確認してください。

3. 「需要単位」で、需要単位(保険証券の数や収益単位の数など)を入力します。
4. 「前年の比率」計算ロジックを使用する場合は、「需要スケール」に値を入力して、計算された需要FTEを増減します。

管理者がオプション「需要ドライバのスケール係数」を有効にした場合は、「需要スケール」を使用して、時間の経過に伴う生産性の変化を考慮して需要プランニングをスケール

できます。**FTE**の将来の需要の計算では、需要スケールは比率の指数として自然対数を考慮します。「需要スケール」値を入力しない場合、需要は需要ドライバの**100%**と仮定されます。需要ドライバがエンティティとジョブのどちらに基づくかにかかわらず、需要スケールはエンティティのすべてのジョブに適用されます。ドライバの計算ロジックが「前年の比率」に設定されていない場合に「需要スケール」に値を入力すると、値は需要計算に影響しません。(カスタム計算ロジックは、式の定義方法によってはこのルールの例外になることがあります。) [需要FTEのスケール](#)を参照してください。

5. 「予想生産性」に値を入力して、**FTE**計算をさらに精緻化します。

管理者が「予想生産性向上係数」を有効にした場合は、「予想生産性」の値を設定して**FTE**計算を調整できます。選択された計算ロジックに関係なく、「予想生産性向上係数」が有効で値が入力されている場合は、「予想生産性」が需要**FTE**計算で考慮されます。 [需要FTEでの生産性変化の係数化](#)を参照してください。

前次 この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [需要プランニング](#)
4. 需要FTEのスケーリング

## 需要FTEのスケーリング

管理者がオプション「需要ドライバのスケーリング係数」を有効にした場合は、「需要スケール」を使用して、時間の経過に伴う生産性の変化を考慮して需要プランニングをスケーリングできます。FTEの将来の需要の計算では、「需要スケール」は比率の指数として自然対数を考慮します。

「前年の比率」計算ロジックを使用する場合は、需要スケール値を入力して、計算された需要FTEを増減します。(需要スケールは、「前年の比率」を計算ロジックとして使用している場合にのみ適用されます。)  
「需要スケール」では、同じ率を使用して必要なリソースを増やさずに需要ドライバを増加できます。たとえば、需要ドライバが倍増したときに、計算された需要FTEを20%減らすには、80%と入力します。需要スケール値を入力しない場合、スケールは100% (つまり、スケーリングが適用されない)と想定されます。

X%の需要スケールは、需要ドライバ(たとえば、コール・センターへの電話数)が倍増するたびに、需要スケールの効果の線形の関係性を考慮して、生産性が前年の需要FTEのX%になることを意味します。

たとえば、FY17が、50人のコール・センター・オペレータが年間1,000件の電話を処理するというFTEのベースライン年であると仮定します:

	FY17	FY18	FY19	FY20
Demand driver (Transaction type: number of calls)	1000	2000	3000	2500
Demand scale		80%	80%	80%
Productivity gain		0%	1%	1%
Demand FTE	50	80	104.2624	91.21628

需要ドライバ(コール・センターへの電話数)がFY17からFY18に倍増すると予想しますが、需要FTE(コール・センターのオペレータ数)は同様に2倍にはなりません。この場合、1年間の経験により従業員の効率が向上すると仮定します。需要ドライバが倍増するたびに、生産性が20%向上すると仮定するため、需要FTE値の80%のみ必要です。

Oracle Strategic Workforce Planning Cloudが需要スケールと予想生産性の向上を考慮して需要FTEを計算するために使用する式は次のとおりです:

$$((PY \text{ Total Demand FTE} / PY \text{ Demand Units}) * ((CY \text{ Demand Units} / PY \text{ Demand Units})^{LN(CY \text{ Demand Scale}) / LN(2)})) * (1 - \text{Expected Productivity})) * CY \text{ Demand Units}$$

ここで:

- PY = 前年
- CY = 現在の年
- LN = 自然対数

「予想生産性」に値を入力することで、**FTE**の計算をさらに精緻化できます。「需要**FTE**」を決定する計算では、「需要スケール」と「予想生産性」の両方に対して設定した値が考慮されます。

[需要FTEでの生産性変化の係数化](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [需要プランニング](#)
4. 需要FTEでの生産性変化の係数化

## 需要FTEでの生産性変化の係数化

管理者が「予想生産性向上係数」を有効にした場合は、「予想生産性」の値を使用して、「需要スケール」の生産性を上回るFTEの生産性に対する影響を考慮できます。たとえば、新しい自動化システムの取得またはプロセスの改善をプランニングし、生産性を向上させ、需要FTEに対する影響を削減します。

たとえば、FY16が、50人のコール・センター・オペレータが年間1,000件の電話を処理するというFTEのベースライン年であると仮定します:

	FY16	FY17	FY18	FY19
Demand Driver (Transaction type: number of calls)	1000	2000	3000	2500
Expected Productivity		5%	5%	5%
Demand FTE	50	95	135.375	107.1719

コール・センターへの電話数(需要ドライバ)がFY16からFY17に倍増すると予想しますが、新しい電話応答システムの購入も計画しており、これにより生産性が向上します。「予想生産性」を「前年の比率」の5%に設定します。これは5%の生産性向上を仮定します。したがって、電話数が2倍(1,000から2,000)に増えた場合、需要を満たすために必要なのは「前年の比率」の95%のみです。必要なFTEを決定する比率は需要ドライバ値(電話数)と「予想生産性」の向上(新しい電話応答システム)に基づくため、「需要FTE」は減少します。

注意:

「需要FTE」を決定する計算では、「需要スケール」と「予想生産性」の両方に対して設定した値が考慮されます。[需要FTEのスケールリング](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [需要プランニング](#)
4. 需要FTEの表示および調整

## 需要FTEの表示および調整

需要ドライバとそれらの計算ロジックに基づいて、数年にわたって計算された需要FTEのサマリーを確認できます。FTEを調整することもできます。これは各ジョブの「需要FTE合計」に影響します。調整FTE値は、「前年の比率」計算ロジックで考慮されます。

計算されたFTEをサマリー表示または調整するには:



1. 「需要」  をクリックします。
2. 「エンティティ別需要FTE」または「ジョブ別需要FTE」をクリックします。

「エンティティ別需要FTE」では、POVに「エンティティ」ディメンション、行に「ジョブ」ディメンションがあります。「ジョブ別需要FTE」では、POVに「ジョブ」ディメンション、行に「エンティティ」ディメンションがあります。2つのタブは、値を入力するために同じデータと指示を共有します。それらの違いは、「エンティティ」ディメンションと「ジョブ」ディメンションに対して軸が反転することだけです。

3. 現在計算されているFTEを表示します。
4. FTEを調整するには、「需要FTE調整」に調整係数を入力します。

たとえば、来年3人のエンジニアを採用する計画がある場合は、エンジニアのセルに3と入力します。「エンティティ別需要FTE」または「ジョブ別需要FTE」に入力する調整は、両方のタブに反映されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. 供給プランニング

## 11 供給プランニング

供給プランニングでは、要員リソースが要員需要をどの程度満たすかを事前に確認します。

供給計算の操作の詳細は、次のチュートリアル・ビデオを参照してください。



[チュートリアル・ビデオ](#)

特定の年の「供給人数」または「FTE」の期首バランスは、前年の退職FTEだけ減らされます。退職および減員値は「供給人数」と「FTE」にマイナスの影響を与えます。



供給データを操作するには、「供給」をクリックします。次に、その水平タブを使用します：

[Summary Supply FTE](#) | [Attrition Driver](#) | [Retirement Age](#) | [Attrition Data by Age Band](#) | [Attrition Data by Job](#) | [Supply FTE](#) | [Supply Headcount](#)

- 供給ジョブおよびFTEのグラフィカル・ビューを表示するには、「供給FTEのサマリー」をクリックします。
- エンティティ別減員データを設定するには、「減員ドライバ」をクリックします。[減員ドライバの設定](#)を参照してください。
- エンティティ別退職年齢を設定するには、「退職年齢」をクリックします。[減員計算のための退職年齢の設定](#)を参照してください。
- 年齢範囲別減員データを設定するには、「年齢層別減員データ」をクリックします。[年齢層別減員の設定](#)を参照してください。
- ジョブ別減員を設定するには、「ジョブ別減員データ」をクリックします。[ジョブ別減員の設定](#)を参照してください。
- 年別戦略的ジョブの計算されたFTE合計を表示するには、「供給FTE」をクリックします。
- ジョブの人数合計を表示するには、「供給人数」をクリックします。
- 供給報酬を表示するには、「供給報酬」をクリックします。「平均報酬」が有効になっている場合、供給報酬はジョブのFTEにその平均報酬レートを乗算することで計算されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [供給プランニング](#)
4. 減員ドライバの設定

## 減員ドライバの設定

通常、減員ドライバは、従業員の離職の約90%を考慮します。Oracle Strategic Workforce Planning Cloudは、デフォルトで2つの減員ドライバを提供します:

- ジョブ別減員
- 年齢層別減員 (「年齢ベースの退職」が有効になっている場合)。「年齢ベースの退職」が有効になっている場合は、退職年齢別減員を計算するための年齢を設定できます。

減員ドライバを設定するには、「減員ドライバ」に続いて「ジョブ別減員」または「年齢別減員」(オプションが有効になっている場合)をクリックします。

次を参照してください。

- [減員計算のための退職年齢の設定](#)
- [年齢層別減員の設定](#)
- [ジョブ別減員の設定](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [供給プランニング](#)
4. 減員計算のための退職年齢の設定

## 減員計算のための退職年齢の設定

供給および減員FTEは「退職年齢」から導出されます。計算された従業員の年齢が退職年齢より高い場合、退職による減員に-1だけ影響します。「退職年齢」は、エンティティのすべてのジョブと従業員に適用されます。

粒度が「従業員とジョブ」レベルで「年齢ベースの退職」オプションが有効になっている場合、退職は「従業員とジョブ」レベルの詳細で計算されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [供給プランニング](#)
4. 年齢層別減員の設定

## 年齢層別減員の設定

管理者が「年齢ベースの退職」を有効にし、従業員の年齢をインポートした場合、要員では、年齢層計算に対してそれらの年齢が計算されます。「年齢層別減員データ」をクリックして、年齢層別減員データを設定します。各年について、会社を退職すると予想される人数/**FTE**の数を入力できます。減員データは供給リソースを減員するため、データは負のパーセンテージとして入力します。ここで入力するデータは、サマリー**FTE**を削減します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. [供給プランニング](#)
4. ジョブ別減員の設定

## ジョブ別減員の設定

「ジョブ別減員データ」をクリックして、ジョブ別減員データを計画できます。ジョブの減員値は負のパーセンテージ(-.05など)として入力します。ここで入力するデータは、供給リソースを削減します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [戦略要員プランニングの操作](#)
3. 需要と供給間のギャップの分析

## 12 需要と供給間のギャップの分析

プランに必要なリソース(需要)と、これらの需要を満たすために使用可能になると予想されるリソース(供給)をプランニングした後、需要と供給の間のギャップを参照することで、それらがどの程度一致しているかを参照します。その後、これらのギャップを最小化するアクションを実行できます。



需要と供給の間のギャップを表示するには、「ギャップ分析」をクリックします。

- 供給と需要のサマリー・データおよびその差異を表示するには、「需要と供給」をクリックします。左上のフォームで、データを表示できます。チャートでトレンドを確認できます。
- 供給と需要の人数の差異を表示するには、「需要と供給人数」をクリックします。この情報は、採用またはトレーニング・プランを更新することでギャップに対処する際のガイドになります。例:
  - 人を非戦略的ジョブから戦略的ジョブに異動します。
  - トレーニング・コースを追加して戦略スキルを構築します。
  - 必要な戦略スキルを持つ人を採用します。
  - インセンティブ・プログラムを作成して、戦略スキルを持つ人を保持します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. 要員の操作

## 第III部 要員の操作

関連トピック

- [タスクの概要](#)
- [報酬費用の管理](#)
- [非報酬費用の管理](#)
- [デモグラフィクスの管理](#)
- [要員費用の分析](#)
- [データのレポート](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. タスクの概要

## 13 タスクの概要

関連トピック

- [要員のワークフロー](#)
- [ユーザー変数の設定](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [タスクの概要](#)
4. 要員のワークフロー

## 要員のワークフロー

管理者がOracle Strategic Workforce Planning Cloudと要員の両方を有効にした場合は、まず、戦略要員プランニングで実行するタスクを確認します。[戦略要員プランニングのワークフロー](#)を参照してください。

一般に、要員タスクの実行は次の順序で行います:

1. プランおよび予測を作成または更新する前に、ビジネス・ルール「デフォルトの同期」と「報酬の計算」を実行します。

これらのビジネス・ルールにアクセスするには、「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「既存の従業員」の順に選択します。

2. ユーザー変数を設定します。

[ユーザー変数の設定](#)を参照してください。

3. 要員仮定およびデフォルトを確認または入力します。管理者が初期仮定を設定した可能性があります。

「報酬プランニング」を使用し、「仮定」および「デフォルト」を使用します。

4. 要員詳細を更新します。

次の表を参照してください。

5. 「報酬の計算」ビジネス・ルールを再度実行して、値を再計算します。
6. ダッシュボードおよび分析を確認します。
7. データ・マップを使用して、データをレポートします。

注意:

管理者が有効にした機能によっては、この項で説明するすべての機能が表示されないことがあります。



開始するには、「要員」をクリックし、コンポーネントを選択します。

表13-1 戦略要員プランニングの「タスク」

タスク	実行するタスク	詳細情報
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 報酬データの概要の表示</li></ul>	<a href="#">報酬費用の管理</a>



## Compensation Planning

- 新規採用および既存の従業員の管理
- 従業員詳細の管理
- 従業員をエンティティ間で異動する
- 要員仮定(日当たりの作業時間数など)の設定
- 「給与等級」での給与基準(年次など)および給与レートの設定
- 給与、追加所得、福利厚生および税金のデフォルトの設定



- 非報酬費用の合計の表示
- 非報酬費用の入力または更新

[非報酬費用の管理](#)



## Demographics

- デモグラフィクス別人数サマリーの表示
- デモグラフィクス別要員費用の表示
- 従業員またはジョブへのデモグラフィクスの割当て

[デモグラフィクスの管理](#)



## Analysis

- 人数およびFTE (常勤換算)のダッシュボード・サマリーの表示
- 一定期間にわたる報酬トレンドの分析
- スキル・セット別の人数および費用の表示
- 採用に対する既存従業員別の、稼働率およびスタッフ配属の概要の表示

[要員費用の分析](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [タスクの概要](#)
4. ユーザー変数の設定

## ユーザー変数の設定

このタスクは、機能が有効化され、構成された後に実行します。

各プランナは、次に説明する変数を設定する必要があります。

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、さらに「ユーザー変数」をクリックします。
2. 次のユーザー変数を設定します:
  - 通貨
  - エンティティ
  - ジョブ・タイプ
  - レポート通貨
  - シナリオ - 要員のシナリオを設定します
  - シナリオ・ビュー - **Oracle Strategic Workforce Planning Cloud**のシナリオを設定します
  - 「戦略開始年」と「戦略終了年」 - 戦略要員プランニングの場合、開始年と終了年を設定することで、スキル・セット・プランニングを年の範囲に制限します
  - バージョン
  - 年

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. 報酬費用の管理

## 14 報酬費用の管理

従業員関連情報を更新する前に、現在の費用トレンドおよび要約を確認する場合は、「報酬」、「概要」の順にクリックまたはタップします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 採用要請の管理

## 採用要請の管理

採用要請があると、誰かが採用されてその要請を充足するまで、プレースホルダー費用が要員予算に追加されます。従業員が採用されて採用要請を充足すると、プレースホルダー採用要請費用が採用された従業員に転送されて関連付けられます。

採用要請機能は、次の要員機能が有効になっている場合に使用可能になります：

- 「粒度」タイプが「従業員」または「従業員とジョブ」
- 「要員管理」の下の「新規採用」オプション

要員要請が使用可能な従業員数を超えた場合、「新規採用」機能を使用して次の操作を実行できます：

- 従業員により充足される採用要請の追加
- 採用要請のステータスの変更
- 採用要請と従業員との関連付け
- 採用要請の削除
- 最終的な報酬費用の計算

要員では、最初に100件の空白の新規従業員採用要請が提供され、これを使用して、後から必要に応じて追加できます。採用要請を追加するには、「アクション」ギアから「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「採用要請の追加」の順に使用します。(他の採用要請オプションにも同じ順序を使用してください。)

従業員の採用により採用要請を充足するとき、採用要請をその従業員に関連付けます。照合済FTEの値は、採用要請FTEの値と等しくなります。つまり、採用要請のFTEと人数が減らされ、関連する従業員に割り当てられます。

採用要請を従業員に関連付けるには：

1. 必要に応じて採用要請を追加します。  
[採用要請の追加](#)を参照してください。
2. 従業員を採用要請と関連付けます。  
このアクションによって、FTE/人数が既存の関連従業員に転送されます。新規の採用要請プロパティ「照合済FTE」および「照合済人数」が移入されます。[従業員の採用](#)を参照してください。
3. 採用要請の使用可能なFTEが既存の関連従業員に割り当てられた後は、その採用要請は要員報酬費用に計上されなくなるため、削除してもかまいません。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 採用要請の追加

## 採用要請の追加

要員要請が使用可能な従業員数を超えた場合、従業員により充足される採用要請を追加できます。複数の要請を同時に作成して、**FTE**、従業員タイプ、期間および給与を設定できます。

概要については、[採用要請の管理](#)を参照してください。

注意:

このトピックは、「従業員」および「従業員とジョブ」の粒度オプションにのみ適用されます。

採用要請を追加するには:

1. 「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「新規採用」の順にクリックします。
2. 「アクション」をクリックし、「採用要請の追加」をクリックします。
3. 「要請詳細」で、次の側面を設定し、「次」をクリックします。
  - 追加する要請の数
  - それぞれの**FTE**の値
  - 従業員タイプ(たとえば、「常勤」、「契約社員」または「臨時」)
4. 「カレンダー情報」で、要請の費用を費用計算に含める場合に設定する「開始年」および「開始月」を選択し、「次」をクリックします。

従業員の終了日を把握している場合、オプションで、「終了年」および「終了月」を選択します。終了期間の指定は、臨時従業員に対して特に便利です。そうすることで、「退職プラン」ルールを使用して退職を計画する必要がなくなります。要員費用の計算は、開始日に開始して終了日に終了します。終了期間オプションを使用する場合、終了年と終了月を両方選択する必要がありますことに注意してください。

5. 「ジョブと給与オプション」で、次のオプションを選択します。
  - 要請の対象となるジョブ
  - 要請の対象となる組合コード
  - 要請の給与を設定するためのオプション:
    - 給与のデフォルト: 「報酬プランニング」の「デフォルト」タブで設定する給与のデフォルトに基づいて給与を設定するよう選択します。
    - 給与基準とレート: 給与レート(6000など)と給与基準(月次など)を直接入力するよう選択します。
    - 給与等級: 給与等級を選択することで給与を設定するよう選択します。管理者が給与等級をインポートし、ユーザーは「報酬プランニング」、「仮定」、「給与等級」の順に選択して新規採用のデフォルトを設定します。

給与オプションを選択しない場合、給与のデフォルトが使用されます。「給与基準とレート」または「給与等級」を選択すると、給与のデフォルト割当てはすべてオーバーライドされます。

6. 「起動」をクリックします。

追加所得、福利厚生、税金、人数などは、指定した時間範囲において指定した要請を対象に計算されます。

必要に応じて、追加した採用要請の給与レート、給与基準、給与等級または終了期間を後から変更できます。[採用要請の更新](#)を参照してください。雇用予定者が採用された従業員に関連付けられた後で給与を更新するには、[従業員報酬の更新](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 採用要請の更新

## 採用要請の更新

採用要請を追加した後、そのステータスの説明、給与または期間を更新できます。要請を削除することもできます。

注意:

要請を削除するには、次の手順1に従い、「アクション」を選択し、「採用要請の削除」を選択します。要請が削除されると、関連付けられたFTE/人数および報酬費用は、計算に含まれなくなります。

採用要請を更新するには:

1. 「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「新規採用」の順にクリックします。
2. 更新する要請を選択します。
3. 「アクション」をクリックし、「要請の変更」をクリックします。
4. 「要請変更」で、適用するオプションを選択し、「次」をクリックします。
  - ステータス - 要請に対して参照用の説明を設定するよう選択します(「新規」、「アクティブ」、「承認済」、「未承認」、「保留」または「クローズ済」)。
  - 給与 - 要請の給与の基準、レートまたは等級を更新するよう選択します。手順5に進みます。
  - カレンダの拡張 - 要請の終了日を変更するよう選択します。要請の要員費用の計算は、要請の開始日に開始して終了日に終了します。手順6に進みます。
  - カレンダの縮小 - 手順7に進みます。
5. 要請に関連付けられた給与を更新するには:
  - 給与のデフォルト - 「報酬プランニング」の「デフォルト」タブで設定する給与のデフォルトに基づいて給与を設定するよう選択します。
  - 給与基準とレート - 給与レート(6000など)と給与基準(月次など)を直接入力するよう選択します。
  - 給与等級 - 給与等級を選択することで給与を設定するよう選択します。管理者が給与等級をインポートし、ユーザーは「報酬プランニング」、「仮定」、「給与等級」の順に選択して新規採用のデフォルトを設定します。

給与オプションを選択しない場合、給与のデフォルトが使用されます。「給与基準とレート」または「給与等級」を選択すると、給与のデフォルト割当てはすべてオーバーライドされます。

6. 要請の期間を拡張するには:
  - a. プロパティのコピー元で、要請プロパティを拡張範囲にコピーする基準として使用する月を選択します。このオプションにより、「FTE」、「ステータス」、「従業員タイプ」、「支払タイプ」などの側面を拡張範囲に繰り越すことができます。
  - b. 「終了年」および「終了月」を選択します。

終了月と終了年を指定することで、「退職プラン」ルールを使用して退職を計画する必要がなくなります。終了年と終了月を両方選択する必要があることに注意してください。

7. 要請の期間を縮小するには、「終了年」および「終了月」を選択します。

終了年と終了月を両方選択する必要があります。

8. 「起動」をクリックします。

追加所得、福利厚生、税金、人数などは、指定した時間範囲において指定した要請を対象に計算されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 従業員報酬の更新

## 従業員報酬の更新

従業員報酬を表示および更新するには:

1. 「報酬」、「従業員の詳細」の順にクリックします。
2. 必要に応じて情報を更新します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 従業員のステータスの変更

## 従業員のステータスの変更

従業員のステータスを変更するには:

1. 「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「既存の従業員」の順にクリックします。
2. 行で従業員を選択し、「アクション」ギアから、「従業員ステータスの変更」をクリックします。
3. 新規ステータスを含む、該当する情報を選択します。
  - アクティブ - 従業員の要員費用が要員の計算に完全に含まれます。
  - 疾病傷害 - 指定した期間、従業員の要員費用が計算されません。
  - 休職 - 指定した期間、従業員の要員費用が計算されません。
  - 産休 - 仮定に設定された部分的な支払係数に従って、従業員の要員費用が計算されます。部分的な支払係数によって従業員の給与に適用される支払パーセンテージが設定されます。仮定にこのパーセンテージを設定するには、「報酬プランニング」、「仮定」の順にクリックします。
  - サバティカル - 指定した期間、従業員の要員費用が計算されません。
4. 月、年およびステータスの期間を選択します。コメントを追加することもできます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 従業員の採用

## 従業員の採用

従業員を採用する場合、その従業員を既存の採用要請に関連付けます。

従業員を採用する場合、従業員をメンバーとして従業員ディメンションに追加します。次に、その従業員を採用要請(**TBH**)に関連付けます。これにより、その**FTE**と人数がアプリケーションに割り当てられます。(採用要請の詳細は、[採用要請の管理](#)を参照してください)。新規従業員を採用要請と照合した後は、「既存の従業員」フォームで従業員の要員情報を管理します。

新規採用した従業員を採用要請と関連付けるには:

1. 「報酬」、「従業員の管理」、「新規採用」の順にクリックします。
2. 新規採用と関連付ける採用要請を含む行をクリックし、「アクション」、「従業員の関連付け」の順にクリックします。

新しい従業員の報酬費用が合計に追加され、採用要請の人数および報酬費用がクリアされます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 従業員の退職のプランニング

## 従業員の退職のプランニング

従業員の辞職や雇用終了の際、従業員に関連付けられている報酬費用が退職月以降計算に含まれないようにするには、「退職プラン」を使用します。

従業員の退職を計画するには:

1. 「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「既存の従業員」の順にクリックします。
2. 従業員を選択します。
3. 「アクション」、「退職プラン」の順にクリックします。
4. 該当する日付および情報を選択します。

たとえば、月、年、従業員の退職理由を選択し、オプションでコメントを追加します。

退職月の後、従業員の要員費用は計算に含まれません。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 従業員の異動

## 従業員の異動

従業員の異動を行うと、報酬費用が計算される対象の部門(またはエンティティ)が変更されます。マネージャは、次のいずれかのプロセスを使用して従業員の異動を行います:

- 1ステップの異動 - ソース・エンティティとターゲット・エンティティの両方を所有する場合(つまり、ソース・エンティティとターゲット・エンティティへのアクセス権限がある場合は、「異動」ルールを使用します。
- 2ステップの異動 - ソース・エンティティとターゲット・エンティティ両方へのアクセス権限がない場合は、「転出」ルールおよび「転入」ルールを使用します。2ステップの異動では、セキュリティが高くなります。たとえば、**B**部署エンティティへのアクセス権限がなければ、**A**部署のマネージャは**B**部署のメンバー・データを表示できません。受入れ側の部署で従業員が転入される同じ月に、その従業員を転出する必要があります。

注意:

従業員が転出された後、転出月以降、その従業員のデータは転出元の部署に残りません。従業員が新しい部署に異動された時、ステータスがその転入先の部署で「アクティブ」になり、当該従業員の給与が新しい部署で計算されます。

2つの手順の従業員異動プロセスを使用するには:

1. 「報酬プランニング」、「従業員の管理」、「既存の従業員」の順にクリックします。
2. 「アクション」ギアをクリックし、「転出」をクリックします。

転出を行うと、従業員の名前が「保留中の異動の確認」フォームに表示されます。

3. 従業員をターゲットの部署に転入するには、「保留中の異動の確認」で従業員を選択し、「アクション」、「転入」の順に選択します。

ヒント:

プランの承認前に保留中の異動を確認することをお勧めします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 功績レートのプランニング

## 功績レートのプランニング

功績レートの増加は給与計算に加算されます。次の方法を使用して従業員の功績レートをプランニングできます:

- 従業員のパフォーマンス評価(「期待を満たす」、「期待を超える」、「功績なし」など)に基づきます。(管理者はパフォーマンス評価を作成またはインポートできます。)
- デフォルト功績メンバーのエンティティ別にデフォルトのパーセンテージ評価を設定します。従業員のパフォーマンス評価が設定されていない場合(パフォーマンス評価は「従業員の詳細」フォームで設定および表示できます)またはより汎用的なレベルで功績レートをプランニングする場合は、エンティティ別功績昇給のデフォルト・パーセント・レートを設定できます。年の功績昇給はその年の基本給計算に含まれ、後続の年の基本給に繰り越されます。

この方法は、管理者がまだパフォーマンス情報を持っていない場合、たとえば将来の年の功績昇給をプランニングする場合に特に役立ちます。功績レートがエンティティ間で同じ場合にプランニングを簡単にするには、ルール「功績レートのコピー」を使用して、功績レートのあるエンティティから別のエンティティにコピーすることもできます。

功績レートを設定するには:



### Compensation Planning

1. **Compensation Planning** をクリックします。
2. 「仮定」、「功績レート」の順にクリックします。
3. 「視点」リンクから、「シナリオ」、「バージョン」および「エンティティ」を選択します。
4. 優先する方法を使用して功績レートを設定します:
  - パフォーマンス評価行で、功績パーセント・レートを入力します。
  - パフォーマンス評価が設定されていない場合は、デフォルト功績行に功績パーセント・レートを入力します。この値は、パフォーマンス評価が空白の場合にのみ給与計算で使用されます。

オプション: あるエンティティから別のエンティティに功績レートをコピーするには、「アクション」メニューからルール「功績レートのコピー」を実行します。ルールのプロンプトで、功績レートをコピーする親または子エンティティ・メンバーと、レートのコピー先のターゲット・レベル0メンバーを選択します。ソース親メンバーを選択すると、功績レートを簡単にプッシュできます。功績レートを別のエンティティにコピーした後でも、「功績レート」フォームでレートを上書きできます。

注意:

功績レートは、パフォーマンス評価とデフォルト功績メンバーのどちらに基づくかにかか

ならず、レベル0のエンティティ・レベルで設定する必要があります。管理者が企業の「仮定」(エンティティなし)メンバーで功績レートを入力した場合、レートは「エンティティ合計」の特定のレベル0の子メンバーにコピーまたは追加されるまで有効になりません。個々のエンティティ所有者は、ルール「功績レートのコピー」を使用でき、必要に応じてレートを変更できます。

5. 「アクション」、「報酬の定義の同期」の順にクリックします。

このルールを実行すると、従業員の功績昇給の結果として変更される可能性のある税しきい値が再計算されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. 報酬費用の計算

## 報酬費用の計算

要員でデータを更新するたびに、費用を再計算するために「報酬の計算」ルールを実行する必要があります。「アクション」、「報酬の計算」の順にクリックします。

注意:

ビジネス・ルールの実行時に無効なデータに関するエラー・メッセージが表示された場合、[ルールのエラー・メッセージのトラブルシューティング](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. デフォルトの同期

## デフォルトの同期

エンティティのデフォルトが追加されたとき、または既存のデフォルトが変更されたときは、「デフォルトの同期」ビジネス・ルールを実行する必要があります。デフォルトの同期ルールを実行すると、更新された構成情報がプッシュされ、更新された情報に基づいてフォームの計算が行われます。

「デフォルトの同期」を実行するには、「アクション」、「ビジネス・ルール」、「デフォルトの同期」の順にクリックまたはタップします。右クリック・メニューを使用して「デフォルトの同期」を起動した場合は、選択されている従業員とジョブの組合せに対してこれを使用する必要があります。

対象にあわせて次のようにビジネス・ルールを実行します:

- 1名の場合、その人物の名前を含む行をハイライト表示してからビジネス・ルールを実行します。
- 複数の人物の場合、または実行時プロンプトを使用してディメンションを選択する場合は、空の行をハイライト表示してからビジネス・ルールを実行します。

注意:

既存の給与等級、福利厚生、税金または追加所得が更新された場合、更新された定義を従業員およびジョブにプッシュするには、コンポーネント定義の同期ビジネス・ルールを実行します。このビジネス・ルールは、エンティティのデフォルトを更新しません。

注意:

新しいデータのインポートが完了したら、ビジネス・ルール「ロードされたデータの処理」を実行して、データをプランニング年範囲の必要な期間にコピーします。このビジネス・ルールを実行すると、代替変数&CurYrおよび&CurMnthからの情報がコピーされます。

注意:

ビジネス・ルールの実行時に無効なデータに関するエラー・メッセージが表示された場合、[ルールのエラー・メッセージのトラブルシューティング](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. [報酬費用の管理](#)
4. ルールのエラー・メッセージのトラブルシューティング

## ルールのエラー・メッセージのトラブルシューティング

データを操作しやすくするために、要員では様々な場所でスマート・リスト・ドロップダウン・リストが使用されています。プロパティ「メンバーから作成」で定義されたスマート・リストでは、スマート・リストの数値IDではなくテキスト・データ(メンバー名)が使用されます。アプリケーション内のスマート・リストに誤って数値データが含まれている場合や、データが欠落している場合は、「ロードされたデータの処理」や「デフォルトの同期」などの事前定義済ビジネス・ルールを実行すると、エラー・メッセージが表示されます。

不適切なスマート・リスト値を見つけて修正するには:

1. 「報酬プランニング」、「デフォルト」の順にクリックします。
2. 「給与」、「追加所得」、「福利厚生」および「税金」の各タブで、エンティティのデフォルトを確認します。

従業員のプロパティおよび報酬に関連する無効なデータ(テキスト・データではなく数値データ)がないか確認します。

3. 従業員とジョブの組合せに無効なスマート・リスト値がないことを確認するには、「検証」



タブをクリックします。

スマート・リストに数値データが存在する場合、管理者が、その従業員とジョブの組合せのデータを再ロードするか、欠落しているメンバーを階層に追加することにより、このエラーを修正できます。その後、スマート・リスト・ドロップダウン・リストからそのメンバーを選択できます。あるいは、ニーズに合う別のスマート・リスト値を選択することも可能です。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. 非報酬費用の管理

## 15 非報酬費用の管理

トレーニングや旅費などの非報酬費用は、「その他費用」を使用して管理します



- 費用のサマリーを表示するには、「サマリー」をクリックします。
- 非報酬費用を追加または更新するには、「非報酬費用」をクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. デモグラフィクスの管理

## 16 デモグラフィクスの管理

デモグラフィクスには、「民族」、「性別」、「宗教」、「退役軍人ステータス」、「最終学歴」、「年齢層」など、各個人に固有の従業員属性の説明が示されます。デモグラフィクスを分析すると、次のことに役立ちます:

- 採用における公平性の保証
- 高齢労働者の退職に伴う人材ギャップの是正
- 将来のプロジェクトに必要な従業員数およびスキル・セットの調査

たとえば、新規従業員の属性を設定する目的で、デモグラフィクスを表示および更新するには、「デモグラフィクス」をクリックします。次に:

- デモグラフィクス別人数のグラフィック・サマリーを表示するには、「人数概要」をクリックします。
- デモグラフィクス別要員費用のグラフィック・サマリーを表示するには、「要員費用概要」をクリックします。
- 従業員およびジョブ別のデモグラフィクスを設定するには、「従業員デモグラフィクス」をクリックします。

ダッシュボードで正しい計算を確認するには、「従業員別デモグラフィクス」フォームで、任意のデモグラフィクス・メンバー(未指定のデモグラフィクス・メンバーを含む)を選択できます。ただし、「<demographic\_member\_name>なし」メンバー(例:「最終学歴なし」、「年齢層なし」、「性別なし」など)は選択しないでください。

注意:

組織がどのデモグラフィクスを追跡するかは、管理者が設定します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. 要員費用の分析

## 17 要員費用の分析

要員では、人数、報酬、トレンド、スキル・セットなどの概要を把握できるように、事前定義済のダッシュボードが提供されています。ダッシュボードから、リンクをクリックまたはタップすることにより、詳細データにドリルできます。また、様々な方法で仮定分析を実行することもできます。たとえば、グリッド内の値を変更すると、チャートにその即時影響が表示されます。



分析ダッシュボードにアクセスするには、要員で **Analysis** をクリックし、垂直タブに表示されたデータを検索します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [要員の操作](#)
3. データのレポート

## 18 データのレポート

データの完全なレポートを行うために、要員には、あるキューブからレポート・キューブに統合済データをプッシュするためのデータ・マップが用意されています。たとえば、報酬データをレポート・キューブにプッシュできます。

マップされるデータは次のとおりです:

- レポート用の報酬データ - 報酬情報をレポートする場合
- レポート用の人数データ - 人数データをレポートする場合
- レポート用の非報酬データ - 非報酬情報をレポートする場合

データ・マップにアクセスするには:

1. 「アプリケーション」 、「データ交換」 、「データ・マップ」の順にクリックします。
2. 使用するデータ・マップをクリックし、「アクション」から「データのプッシュ」をクリックします。

レポート・キューブ内のデータは、データがレポート・キューブにプッシュされる前に必ずクリアされます。

データ・マップを設定および変更する方法は、*Oracle Planning and Budgeting Cloud Planning*の管理ガイドで説明されています。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. データのインポート

## A データのインポート

アプリケーション内から、ビジネス・プロセスごとにデータ・インポート・テンプレートをダウンロードできます。テンプレートは、有効化した機能および追加されているカスタム・ディメンションに基づいて生成されます。

データ・インポート・テンプレートをダウンロードするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックします。
2. 「構成」リストから、テンプレートをダウンロードするビジネス・プロセスを選択し、「アクション」メニューから「データ・ロード・テンプレートのダウンロード」を選択します。
3. zipファイルをローカルに保存し、次にcsvファイルを抽出します。

次のタスクを実行して、データをインポートします。

1. データをインポートする前に、このヘルプ・システムの説明に従ってアプリケーションを構成し、「構成」を使用してディメンション・メタデータをインポートします。

注意:

メタデータをインポートするには、「構成」を使用することをお勧めします(メタデータが指定されたルールとフォームで動作するように正しくロードされるため)。ディメンション・エディタを使用してメタデータをロードする場合、ディメンションのプライマリ階層は、そのディメンションの「すべて」メンバーの下に配置する必要があります。代替階層を「ルート」メンバーの下に追加することもできますが、このメンバーは親すなわちロールアップ・タイプ・メンバーであることが必要です。ディメンションのルート・メンバーに対してロールアップ/集計を行うように、親またはメンバーを設定しないでください。ルート・メンバーはフォーム、ダッシュボードまたはレポートに表示できないためです。

2. 適切なデータ・インポート設定を指定します。[データ・ロード設定の管理](#)を参照してください。
3. オプション: 必要な場合に元に戻すことができるように、データ・インポート・テンプレートのバックアップ・コピーを作成します。
4. オプション: アプリケーションをバックアップします。
5. カスタム・スマート・リストを作成した場合は、関連データの前にそれらをインポートします。(一部のビジネス・プロセスでのみ使用可能。)

インポートするスマート・リストとそれらのエントリ名を特定するには:

- a. 「ナビゲータ」をクリックしてから、「作成および管理」の「スマート・リスト」をクリックします。

b. スマート・リストを選択して「編集」をクリックし、「エントリ」を選択します。

c. 関連付けられている名前を書き留めます。

6. **Microsoft Excel**でテンプレートを開き、ビジネス・データを指定してカスタマイズします。

7. オプション: データのインポートと計算を確実に正しく行うためには、まずテスト・アプリケーションにインポートします。

8. データを本番アプリケーションにインポートします。

9. 最初のデータ・インポートでは、データの処理と計算に必要なルールを実行します。各ビジネス・プロセスに関する項を参照してください。

テンプレートをカスタマイズする場合:

- ゼロを入力しないでください。
- データをインポートするには、インポートするファイルのすべてのディメンションに少なくとも1つのメンバーが必要です。
- データがない列は削除します。たとえば、期間設定が月次の場合は、**Qtrly 1 - 4**の列を削除できます。
- メンバー名がゼロ(0)で始まる場合は、数値の列をテキストに変更してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [データのインポート](#)
3. 戦略要員プランニング・データのインポート

## 戦略要員プランニング・データのインポート

アプリケーション内から、**Oracle Strategic Workforce Planning Cloud**データ・インポート・テンプレートをダウンロードできます。これらのテンプレートは、有効化した機能と、機能を有効化したときに追加したカスタム・ディメンションに基づいて生成されます。[データのインポート](#)を参照してください。

これらのテンプレートは、「プランニングと予測の準備」構成タスクで設定した**CurYr**を反映します。データをインポートしてキューブをリフレッシュした後で、ロードされたデータの処理ルールを実行して、プランニングを行う年範囲の必要な期間にデータをコピーします。

各テンプレート名の接頭辞は、アプリケーションの粒度によって決まります：

- 従業員とジョブ・アプリケーションの場合、テンプレート名の前に**EJ\_**が付きます。次に例を示します：**EJ\_SWPDemandDataLoad\_Plan.csv**
- ジョブのみのアプリケーションの場合、テンプレート名の前に**Jo\_**が付きます。次に例を示します：**Jo\_JobPropertiesDataLoad\_Plan.csv**

注意：

アプリケーションが複数通貨の場合は、データを通貨なしメンバーにインポートします。（インポート・テンプレートは複数通貨アプリケーションの通貨なしメンバーを含むように書式設定されます。）「平均報酬」を有効にした場合は、エンティティの通貨なしで平均報酬レートもインポートします。

「ロードされた戦略要員データの処理」ルールによって開始点を要求されるため、プロパティと**OWP\_FTE**は任意の月と年にインポートできます。ただし、スキル評価データ、需要および供給データはすべて**BegBalance**にロードされます。

データのインポート後、「ロードされた戦略要員データの処理」ルールを実行します。

### 需要ドライバの需要単位のインポート

**EJ\_SWPDemandDataLoad\_Plan.csv**を使用して、需要ドライバの需要単位をインポートします。

### 需要ドライバと需要FTEの率のインポート

**EJ\_SWPDemandDataByJob\_Plan.csv**を使用して、需要ドライバと需要**FTE**の需要率をインポートします。前年比需要計算を検討するには、「プラン開始年」より前の年についてこのデータをインポートします。

### レポート・キューブへの従業員情報、ジョブ当たりのFTE、エンティティおよび年のインポート

**EJ\_EmployeeFTEDataLoad\_REP.csv**を使用して、従業員情報、ジョブ当たりの**FTE**、エンティティ、年を**OEP\_REP**レポート・キューブにインポートします。この情報は、様々なスキル・カテゴリにわたる平均スキル評価の導出の基礎です。

## 従業員スキル評価データのインポート

EJ\_EmployeeSkillAssessmentDataLoad\_Plan.csvを使用して、レポート・キューブ内の様々なスキルにわたって従業員のスキル評価をインポートします。この情報は、様々なスキル・カテゴリにわたる平均スキル評価の導出の基礎です。

## ジョブ別減員データのインポート

EJ\_SWPAttritionDataByJob\_Plan.csvを使用して、ジョブ別減員の値をインポートします。

## ジョブ別需要データのインポート

EJ\_SWPDemandDataByJob\_Plan.csvを使用して、ジョブ別需要データの値をインポートします。

## 新規採用のインポート

## 新規採用のプロパティのインポート

EJ\_NewHiresPropertiesDataLoad\_Plan.csvを使用して、新規採用のプロパティをインポートします。

## ジョブ・プロパティのインポート

JO\_JobPropertiesDataLoad\_Plan.csvを使用して、ジョブ・プロパティをインポートします。

## ジョブ別減員データのインポート

JO\_SWPAttritionDataByJob\_Plan.csvを使用して、ジョブ別減員データをインポートします。

## ジョブ別需要データのインポート

JO\_SWPDemandDataByJob\_Plan.csvを使用して、ジョブ別需要データをインポートします。

## 需要ドライバの需要単位のインポート

JO\_SWPDemandDataLoad\_Plan.csvを使用して、需要ドライバの需要単位をインポートします。

## 従業員とジョブのプロパティのインポートについて

従業員とジョブのプロパティは、減員の前に供給FTEデータの基礎を提供します。戦略要員プランニングのみ有効にしたか、要員のみ有効にしたか、または両方のビジネス・プロセスを有効にしたかに関係なく、アプリケーションはインポート・テンプレートJO\_JobPropertiesDataLoad\_plan.csvまたはEJ\_EmployeePropertiesDataLoad\_Plan.csvのプロパティ・データに依存します。適切なプロパティ・ファイルでインポートし、ルール「ロードされた戦略要員データの処理」を実行した後で、情報が戦略要員プランニングで使用可能になります。データを表示するには、「概要」をクリックし、「従業員情報の確認」または「ジョブ情報の確認」をクリックします。

アプリケーションが単一通貨で、戦略要員プランニングと要員の両方が有効になっている場合は、プロパティ・ファイルを1回インポートするのみあります。ルール「ロードされた戦略要員データの処理」を実行すると、データがファイル内の「年」および「月」からyearRangeの年にコピーされます。(戦略要員プランニングには、代替変数OWP\_SWPYearRangeがあります。)

アプリケーションが複数通貨で、戦略要員プランニングと要員の両方が有効になっている場合は、プロパティ・ファイルを2回インポートする必要があります。1回は要員に通貨メンバーを含めるため、2回目は戦略要員プランニングに通貨なしメンバーを含めるためです。各インポートの後

に「ロードされた戦略要員データの処理」ルールおよび「ロードされたデータの処理」を実行します。

「要員」も有効にした場合、[要員データのインポート](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [データのインポート](#)
3. 要員データのインポート

## 要員データのインポート

アプリケーション内から、要員データ・インポート・テンプレートをダウンロードできます。これらのテンプレートは、有効化した機能と、機能を有効化したときに追加したカスタム・ディメンションに基づいて生成されます。[データのインポート](#)を参照してください。

これらのテンプレートは、「プランニングと予測の準備」構成タスクで設定したCurYrを反映します。データをインポートしてキューブをリフレッシュした後で、ロードされたデータの処理ルールを実行して、プランニングを行う年範囲の必要な期間にデータをコピーします。

各テンプレート名の接頭辞は、アプリケーションの粒度によって決まります:

- 従業員とジョブ・アプリケーションの場合、テンプレート名の前にEJ\_が付きます。次に例を示します: EJ\_EmployeePropertiesDataLoad\_Plan.csv
- 従業員のみアプリケーションの場合、テンプレート名の前にEO\_が付きます。次に例を示します: EO\_EmployeePropertiesDataLoad\_Plan.csv
- ジョブのみアプリケーションの場合、テンプレート名の前にJO\_が付きます。次に例を示します: JO\_JobOtherCompensationDataLoad\_Plan.csv

### 従業員プロパティのインポート

次のテンプレートを使用して、既存の従業員のプロパティをインポートします:

- EmployeePropertiesDataLoad\_Plan.csv - 従業員のプラン・プロパティをインポートします。

注意:

EJ\_EmployeePropertiesDataLoad\_Plan.csvテンプレートの場合: 「組合コードなし」や「OWP\_All Union Code」にロードしないでください。かわりに、「組合コード合計」の新しい子メタデータ・メンバーを追加して使用してください。そうしない場合、同期ルールが適切に機能しない可能性があります。

- EmployeePropertiesDataLoad\_Actuals.csv - 従業員の実績プロパティをインポートします。

### 従業員報酬のインポート

EmployeeSalaryDataLoad\_Plan.csvを使用して、給与の計算に使用するデータをインポートします。

### 従業員の実績報酬のインポート

EmployeeCompensationDataLoad\_Actuals.csvを使用して、従業員の実績報酬データをインポートします。

このテンプレートを使用するには、次の「データ・ロードの設定」を設定します:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「統合」で、「データ・ロードの設

定」をクリックします。

2. データをインポートするための次のパラメータを設定します:

- データ・ロード・ディメンション: 勘定科目
- ドライバ・ディメンション: 期間。メンバー: **BegBalance**、**ILvl0Descendants(YearTotal)**
- データ・ロード・ディメンションの親:
  - **OWP\_Total Earnings**。ドライバ・ディメンションの一意の識別子: **BegBalance**
  - **OWP\_Total Benefits**。ドライバ・ディメンションの一意の識別子: **BegBalance**
  - **OWP\_Total Taxes**。ドライバ・ディメンションの一意の識別子: **BegBalance**

### 従業員その他報酬データのインポート

**EmployeeOtherCompensationDataLoad\_Plan.csv**を使用して、福利厚生、税金、追加所得など、従業員のその他報酬データをインポートします。

**OWP\_Value**は、オプションのフィールドです。テンプレートにレートの値を含めた場合、そのレートが、指定した従業員に対するプランニング年範囲にコピーされます。

### 給与等級のインポート

**Salary Grade-Basis.csv**および**Salary Grade-Value.csv**を使用して、給与等級を仮定にインポートします。

### 追加所得、福利厚生および税金のプロパティおよびレートのインポート

追加所得、福利厚生および税金のプロパティおよびレートを福利厚生と税金ウィザードにインポートする場合、次のテンプレートを例として使用します。

- **Earnings,Benefits and Taxes-Properties.csv** - 追加所得、福利厚生および税金のプロパティをインポートします。
- **Earnings,Benefits and Taxes-Rates.csv** - 追加所得、福利厚生および税金のレートをインポートします。

### ジョブ・プロパティのインポート

**JobPropertiesDataLoad\_Plan.csv**を使用して、ジョブ・プロパティをインポートします。

### ジョブ給与のインポート

**JobSalaryDataLoad\_Plan.csv**を使用して、ジョブの給与をインポートします。

### ジョブのその他報酬データのインポート

**JobOtherCompensationDataLoad\_Plan.csv**を使用して、福利厚生、税金、追加所得など、ジョブのその他報酬データをインポートします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. アクセシビリティ

## B アクセシビリティ

オラクルのお客様は、My Oracle Supportを通じて電子サポートを得ることができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>を参照してください。聴覚に障害のある方は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>を参照してください。

オラクル社のアクセシビリティに関する詳細情報は、[Oracle Accessibility Program](#)のWebサイトを参照してください。

このクラウド・サービスのすべてのビデオには、HTMLの同等のトピックがあります。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [アクセシビリティ](#)
3. スクリーン・リーダー・モードの有効化

## スクリーン・リーダー・モードの有効化

スクリーン・リーダー・モードを有効化するには、ページの右上隅にあるボタンをクリックし、アクセシビリティと色のコントラストのオプションが含まれるダイアログ・ボックスを開きます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、**JavaScript**が有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [アクセシビリティ](#)
3. 推奨事項

## 推奨事項

スクリーン・リーダー・ソフトウェアを使用する場合、**Internet Explorer**を使用することをお薦めします。一部のサービス・コンポーネントの画面は、**Google Chrome**を使用していると正しく表示されません。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [アクセシビリティ](#)
3. 一般的な考慮事項および注意

## 一般的な考慮事項および注意

キーボード同等操作の使用およびオンライン・ヘルプでは、次の一般的な考慮事項に注意してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [アクセシビリティ](#)
3. [一般的な考慮事項および注意](#)
4. キーボード同等操作の使用

## キーボード同等操作の使用

キーボード同等操作を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 一般的に、メニュー・タイトル、メニュー・アイテムまたはボタン・テキストに表示される下線付き文字は、ニーモニックと呼ばれています。ニーモニックはそれ自体がわかりやすいため、ニーモニックの詳細な説明は必ずしも提供されていません。実装されているところでは、ニーモニックを使用できます。
- 一部のニーモニックは繰り返されます。たとえば、「ファイル」メニューでは、下線のニーモニックDが「削除」メニュー・アイテムと「非アクティブ化」メニュー・アイテムの両方に使用されています。ニーモニックが繰り返される場合、最初に[D]を押すと、削除対象のアイテムがハイライト表示されます。[Enter]を押して削除を実行するか、再度[D]を押して「非アクティブ化」ボタンをハイライト表示し、[Enter]を押して非アクティブ化を実行します。
- リストされているキーストロークは、PCの標準です。iOSの標準キーは、異なることがあります。
- Firefox 1.5より新しいリリースを使用する場合、修飾キーとして[Alt]のかわりに[Alt]+[Shift]を使用します。

詳細は、[キーボード同等操作](#)を参照してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [アクセシビリティ](#)
3. [一般的な考慮事項および注意](#)
4. [オンライン・ヘルプ](#)

## オンライン・ヘルプ

スクリーン・リーダー・サポートが有効になっている場合、ヘルプ・トピックがドキュメント順序の先頭になり、ヘルプ・ツールバーの上に表示されるように、ヘルプ・ウィンドウが再配置されます。これにより、オンライン・ヘルプの起動時に、スクリーン・リーダーは最初にヘルプ・トピックを読み上げるようになります。

オンライン・ヘルプを使用する際に必要な追加情報:

- スクリーン・リーダー・ユーザーを支援するために、ページが「ヘルプ・トピック」フレームにロードされると、スク립ティングにより、フォーカスはロードされたドキュメントにシフトします。たとえば、ヘルプを開くと、フォーカスは「ヘルプ・トピック」フレーム・ドキュメントに設定されます。
- スクリーン・リーダーで仮想PCカーソル・オプションを使用し、ヘルプ・トピックを読み上げます。**[Insert]+[Z]** を押して仮想PCカーソルを切り替え、**JAWS**コマンドを使用してテキストを読み上げます。
- フォーム・コントロールなどの**HTML**要素は、通常、ブラウザ(該当する場合はスクリーン・リーダー)で予測されるように機能します。例外:
  - 目次ページ: 選択したヘルプ・システムの目次を表示するツリーには、次のリンク・タイプが含まれます。
    - ターゲット・トピック・タイトルを含むリンク。これらのリンクをアクティブにする場合、ターゲット・トピックは「ヘルプ・トピック」フレームで開き、フォーカスは該当トピックに移動します。
    - サブトピックを開くリンク。フォーカスがこのリンク上にある場合、スクリーン・リーダーは次のいずれかを読み上げます。
      - サブトピック・リンクが展開されている場合はノードの折りたたみ。リンクをアクティブにすると、タブの順序からサブトピック・リンクが除去されます。
      - サブトピック・リンクが折りたたまれている場合はノードの展開。リンクをアクティブにすると、サブトピック・リンクはタブの順序で配置されます。

この種類のリンクをアクティブにすると、タブの順序の次のリンクがトピックになり、その後にサブトピックが続きます。

これらのリンクは、タブ順で対応するトピック・リンクの前にあります。トピックにサブトピックがあるかどうかを判別するには、**[Shift]+[Tab]** を押します。スクリーン・リーダーがノードの展開またはノードの折りたたみと読み上げた場合、トピックにサブトピックがあります。

- インデックス・ページと目次ページ: 「製品を選択してください」ドロップダウン・リストで選択を行う場合、「ヘルプ・システムを選択してください」ドロップダウン・リストの現在の値が変わり、製

品に使用可能なヘルプ・システム・タイプが反映されます。製品の変更後、目的のヘルプ・システム・タイプを選択する必要があります。

● 検索ページ:

- スクリーン・リーダーを使用する場合、検索フォーム、またはインデックスおよび目次タブで異なるヘルプ・システムを選択するフォームでは、スクリーン・リーダーは、フォームを送信する以外の目的で、[Enter] キーを使用する場合があります。たとえば、ある状況では、スクリーン・リーダーは[Enter] を使用してフォーム・モードを切り替えます。その場合、次のボタンにフォーカスを移動するショートカットを使用してフォームを送信できます。
- 「次の製品のヘルプを検索してください」で「すべて」チェック・ボックスを選択すると、選択した製品のチェック・ボックスが選択解除されます。
- 「次の製品のヘルプを検索してください」で「すべて」チェック・ボックスを選択し、製品のチェック・ボックスを選択すると、「すべて」チェック・ボックスが選択解除されます。
- 「次の製品のヘルプを検索してください」で「すべて」チェック・ボックスを選択すると、選択したヘルプ・タイプのチェック・ボックスが選択解除されます。
- 「次の製品のヘルプを検索してください」で「すべて」チェック・ボックスを選択し、ヘルプ・タイプのチェック・ボックスを選択すると、「すべて」チェック・ボックスが選択解除されます。

表B-1 オンライン・ヘルプ - キーボード・ショートカット

キー	アクション
[Ctrl]+ [Shift]+ [1]	<p>「ナビゲーション」フレームで目次ページを開いてフォーカスを移動します。表示された目次の項目は、現在表示されているヘルプ・トピックが含まれるヘルプ・システムの項目です。</p> <p>目次は、次を含むフレームで構成されています:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 異なるヘルプ・システムの目次を選択するためのフォーム。別のヘルプ・システムを選択すると、ヘルプ・トピック・フレームも更新されて、そのヘルプ・システムの起動ページが表示されます。</li><li>● 目次のリンク。</li></ul>
[Ctrl]+ [Shift]+ [2]	<p>「ナビゲーション」フレームでインデックスを開いてフォーカスを移動します。表示されたインデックスの項目は、現在表示されているヘルプ・トピックが含まれるヘルプ・システムの項目です。</p> <p>インデックスは、次を含むフレームで構成されています:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 異なるヘルプ・システムのインデックスを選択するためのフォーム。別のヘルプ・システムを選択すると、ヘルプ・トピック・フレームも更新されて、そのヘルプ・システムの起動ページが表示されます。</li><li>● インデックス項目へのショートカット・リンク。文字ごとに分類されています。</li><li>● インデックス項目リンク</li></ul>
[Ctrl]+ [Shift]+	<p>「ナビゲーション」フレームで「検索」フレームを開いてフォーカスを移動します。</p>

[3]

---

[Ctrl]+ ヘルプ・トピックと検索結果を含むフレームであるコンテンツ・フレームにフォーカスを移  
[Shift]+ 動します。

[4]

注意:

ページが予想どおりに読み上げられていない場合、「フォーム・モード」をオフに切り替えてく  
ださい。

---

[Ctrl]+ 様々なヘルプ機能へのリンクを含むツールバー・フレームにフォーカスを移動します。

[Shift]+

[5] 注意:

ツールバーに、アクセシビリティ情報を説明するヘルプ・トピックへのリンクが含まれま  
す。

---

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [アクセシビリティ](#)
3. アクセシビリティ機能

## アクセシビリティ機能

次の機能が用意されています。

- スクリーン・リーダーおよび拡大鏡のサポート
- すべてのオブジェクトに相当するキーボード・ナビゲーション
- すべてのオブジェクト、イメージおよびページ・タイトルのAlt属性とTitle属性
- [Enter]キーおよびキーの割当てを使用した、ツリーの展開および縮小のサポート
- キーボード同等操作を使用した、データ・フォーム・アクセス
- すべてのページで左から右へ実行される、インデックス・タブ
- アクセシビリティと色のコントラストのオプションが含まれるダイアログ・ボックスが開かれる、ページの右上隅にあるボタン

注意:

読み取り専用でキーボード操作を使用してフォーカスを取得しない要素を読み取るには、矢印キーを使用してテキストを読み取ります。これは、タスク・リスト・ステータスなどに適用されます。

注意:

「収益」などの別のサブコンポーネントから「承認」サブコンポーネントに移動すると、「フィルタ」ポップアップが表示されることがあります。

この機能により、エンド・ユーザーは、プランニング・ユニットを送信、確認、承認または却下できます。ユーザーがこの機能を使用する場合、フォームにデータを入力する際に、最近使用されたシナリオおよびバージョンについてプランニング・ユニットがリストされます。最近使用されたシナリオおよびバージョンが存在しない場合、ユーザーがシナリオとバージョンを選択できる「フィルタ」ポップアップが表示されます。ユーザーは、プランニング・ユニットの参照を希望するシナリオおよびバージョン・メンバーを選択できます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. [アクセシビリティ](#)
3. スクリーン・リーダー・モードの使用

## スクリーン・リーダー・モードの使用

- ルールの起動ウィンドウで、対応するボタンを選択して実行時プロンプトのメンバー・セレクタを起動します。
- 検証を実行した後、セルにエラーが含まれる場合、各セルを[Tab]キーで移動して、エラーのあるセルを見つける必要があります。データ検証の要約でエラー・メッセージをクリックしても、エラーのある該当セルにはフォーカスされません。
- スクリーン・リーダー・モードでセカンダリ・ダイアログ・ボックス(メンバー・セレクタなど)を起動する場合、簡易インタフェースで[Esc] キーなどのコントロール・ボタンを押してダイアログ・ボックスを終了させる必要があります。標準インタフェースで、[Alt]+[Z] を押してメイン・ダイアログ・ボックスからセカンダリ・ダイアログ・ボックスにフォーカスを切り替えます。その後、[Tab]キーを使用してダイアログ・ボックスをナビゲートできます。
- 選択には、ボタン、ラジオ・ボタンとチェック・ボックスを使用します。
- 情報アイコンの場合、アイコンをクリックして詳細を表示します。
- 新しいページにポップアップが表示されます。確認メッセージなどのポップアップが保存時またはルールの起動時に表示される際は、スクリーン・リーダーがポップアップについてアナウンスした後、下向き矢印キーを使用してメッセージを読み取ります。情報のポップアップについても、プロセスは同じです。
- グラフとチャートは表示されません。すべて表形式でレンダリングされます。表の内容を読み取るには、[Ctrl] キーを押しながら[Alt] キーと矢印キーを押します。
- 表の読取り専用フィールドをタブで移動する際、PCのカーソル・モードをオンにしてください。編集可能なフィールドにデータを入力する際、PCのカーソル・モードをオフにしてください。
- ユーザー変数など、読取り専用と編集可能な両方の表の内容をすべてのアプリケーションにわたって読み取るには、[Ctrl] キーを押しながら[Alt] キーと矢印キーを押します。
- スクリーン・リーダー・モードでダッシュボードを作成する場合、左側のペインに表示されるリンクはウィジェットでのコンテンツの作成に使用できません。かわりに、コンテンツを作成するためにウィジェット内のチャート、URLおよび注釈リンクを使用できます。
- テキスト領域の内容を読み取るには、[Ctrl]+[A] を押してテキスト領域内のすべてのテキストを選択します。
- スクリーン・リーダーがオンの場合に、開いているダイアログ・ボックスをすべて閉じるには、[Esc] を2回押します。
- スクリーン・リーダーがオンの場合にポップアップを終了するには、[Esc]キーを押します。スクリーン・リーダーがオンの場合に情報メッセージを終了するには、[Tab] を押します。

注意:

左側のペインのツリー表で、フォームなどの呼び出されるアイテムの横にあるラジオ・ボタンを選択してください。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [Oracle Cloud Oracle Strategic Workforce Planning Cloudの管理と作業](#)
2. 新機能を使用するための要員アーティファクトの更新

## C 新機能を使用するための要員アーティファクトの更新

### 概要

ここで説明されている特定のリリースで使用可能な機能拡張では、一部の付属アーティファクトの更新が必要です。

- これらのアーティファクト(次の説明を参照)を変更していない場合、アーティファクトおよび機能は、コンテンツの更新で自動的に使用可能になります。
  - コンテンツの更新中、カスタマイズされたアーティファクトは更新されないため、これらのアーティファクトを変更済で、新機能を利用する場合は、次の手順を実行します。
1. 更新後に全体バックアップを実行し、それをローカルにダウンロードします。
  2. 変更済アーティファクトのリストを確認して、アーティファクトに行った変更により月次更新の機能拡張で対応するかどうかを検討します。新機能を利用するために変更済アーティファクトを復元するかどうかと、変更の一部または全部を再適用する必要があるかどうかを評価します。

### ヒント:

次にリストされている変更済アーティファクトについて、変更済アーティファクトのコピーを作成して、それを変更の参照として使用することを検討してください。

### 注意:

- 廃止されたアーティファクトは、引き続き使用できますが、今後は機能拡張されず、アクティブなフォーム、メニュー、ダッシュボードなどから削除できます。
3. 更新後、識別したアーティファクトに対するカスタマイズを元に戻し、アーティファクトを付属の形式に復元します。[カスタマイズを元に戻す](#)を参照してください。
  4. 必要に応じてアーティファクトに対するカスタマイズを再実装します。
  5. 復元された**Calculation Manager**のルールまたはテンプレートでは、それらが最終になった後、影響を受けるアーティファクトのアプリケーションに、更新したルールまたはテンプレートを必ずデプロイしてください。[カスタム・テンプレートの使用の表示](#)および[ビジネス・ルールおよびビジネス・ルールセットのデプロイ](#)を参照してください。

### リリース18.09

次の情報では、リリース18.09のパフォーマンス強化に関連する新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表C-1 パフォーマンス向上に関連する18.09の機能拡張

アーティファクト・タイプ	変更済アーティファクト	新規アーティファクト	廃止アーティファクト
Calculation Managerのルール		該当なし	該当なし
	<ul style="list-style-type: none"><li>• OWP_Process Loaded Data</li></ul>		

- OWP\_Synchronize Defaults
- OWP\_Synchronize Definition
- OWP\_Plan Departure

Calculation Managerのテンプレート

- OWP\_Process Loaded Data\_T
- OWP\_Synchronize Definition
- OWP\_Synchronize Defaults
- OWP\_Add Requisition\_T
- OWP\_Assign Compensation\_T
- OWP\_Plan Departure\_T

該当なし

メンバー

OWP\_Utilization

該当なし

該当なし

リリース18.07

次の情報では、リリース18.07の新規および変更済アーティファクトについて説明します。

表C-2 要請の追加に関連する18.07の機能拡張

アーティ  
ファクト・  
タイプ

変更済アーティ  
ファクト

新規アーティファク  
ト

廃止アーティファクト

Calculation  
Managerの  
ルール

該当なし

- OWP\_Add Requisition\_GT
- OWP\_Change Requisition\_GT

- OWP\_Add TBH
- OWP\_ChangeHiringRequisitionStatus

Calculation  
Managerの  
テンプレ  
ート

該当なし

- OWP\_Add Requisition\_T
- OWP\_Assign Compensation\_T
- OWP\_Change Requisition\_T

- OWP\_Add TBH\_T
- OWP\_ChangeHiringRequisitionStatus\_T

スマート・  
リスト

OWP\_Status

- OWP\_Salary Options
- OWP\_Requisition Options

該当なし

メニュー

該当なし

該当なし

- 「新規採用アクション」メニュー・アイテム - 採用要請の追加
- 要請ステータスの変更

福利厚生と税金ウィザードの計算に関連する18.07の機能拡張

アーティファクト・タイプ 変更済アーティファクト		新規アーティファクト	廃止 アーティファクト
Calculation Managerのルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OWP_Synchronize Defaults</li> <li>• OWP_Synchronize Definition</li> <li>• OWP_Process Loaded Data</li> <li>• OWP_Transfer</li> <li>• OWP_Transfer In</li> <li>• OWP_Change Job</li> <li>• OWP_Associate Employee</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OWP_Copy Rates Across Entities</li> <li>• OWP_Copy Rates to Months</li> <li>• OWP_Copy Rates from Periodicities</li> <li>• OWP_Copy Rates Across Years</li> </ul>	該当なし
Calculation Managerのテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OWP_Synchronize Defaults</li> <li>• OWP_Synchronize Definition</li> <li>• OWP_Assign Compensation Defaults</li> <li>• OWP_Assign Target Defaults</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OWP_Copy Rates Across Entities</li> <li>• OWP_Copy Rates to Months</li> <li>• OWP_Copy Rates from Periodicities</li> <li>• OWP_Copy Rates Across Years</li> <li>• OWP_Check Rates Availability at Months_T</li> </ul>	該当なし
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各親の下位にある10個すべての基本勘定科目: OWP_Total Earnings、OWP_Total Benefits、およびOWP_Total Taxes</li> <li>• OEP_WFSCキューブのOWP_TiersおよびOWP_Optionsの提供されている子は、「残高」の「タイム・バランス」プロパティに設定されています。親メンバーのOWP_OptionsおよびOWP_tiersの下位に追加されたカスタム・メンバーの「タイム・バランス」プロパティも、「残高」に変更する必要があります。</li> </ul>	「プロパティ」ディメンション内:	該当なし
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• OWP_Custom Expense</li> <li>• OWP_One Time Pay</li> </ul>	

スマー ト・リス ト	OWP_Payment Frequency	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OWP_Component Type</li> <li>• OWP_One Time Pay</li> </ul>	該当 なし
フォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OWP_Rate Table</li> <li>• OWP_Rate Table - Simple</li> <li>• OWP_Rate Table - Threshold</li> </ul>	該当なし	該当 なし
メニュー	該当なし	OWP_Copy Rates	該当 なし
データ・ ロード・ テンプレ ート	<ul style="list-style-type: none"> <li>• EJ_Earnings,Benefits and Taxes-Properties</li> <li>• EO_Earnings,Benefits and Taxes-Properties</li> <li>• JO_Earnings,Benefits and Taxes-Properties</li> <li>• EJ_Earnings,Benefits and Taxes -Rates</li> <li>• EO_Earnings,Benefits and Taxes -Rates</li> <li>• JO_Earnings,Benefits and Taxes -Rates</li> </ul>	該当なし	該当 なし